

放置自転車撤去業務のデジタル化

DXで変わる！

放置自転車撤去業務も渋谷の街もスマートに！

業務改善部門

渋谷区土木部交通政策課

Shibuya DLS チーム



もくじ

1. 放置自転車対策の必要性

2. 放置自転車の現状・課題

3. 業務改善

4. 業務自動化アプリの使用方法

5. 成果

6. 大変だった点・皆様の感想・展望



1. 放置自転車対策の必要性

放置自転車は街に様々な悪影響を及ぼす・・・ 

歩行者の通行



特に、高齢者・小さな子供、障がい者の通行への影響大

一般車両の通行



交通渋滞や事故の原因

街の景観



駅前や歩道を雑然とさせ、街の景観を損なう

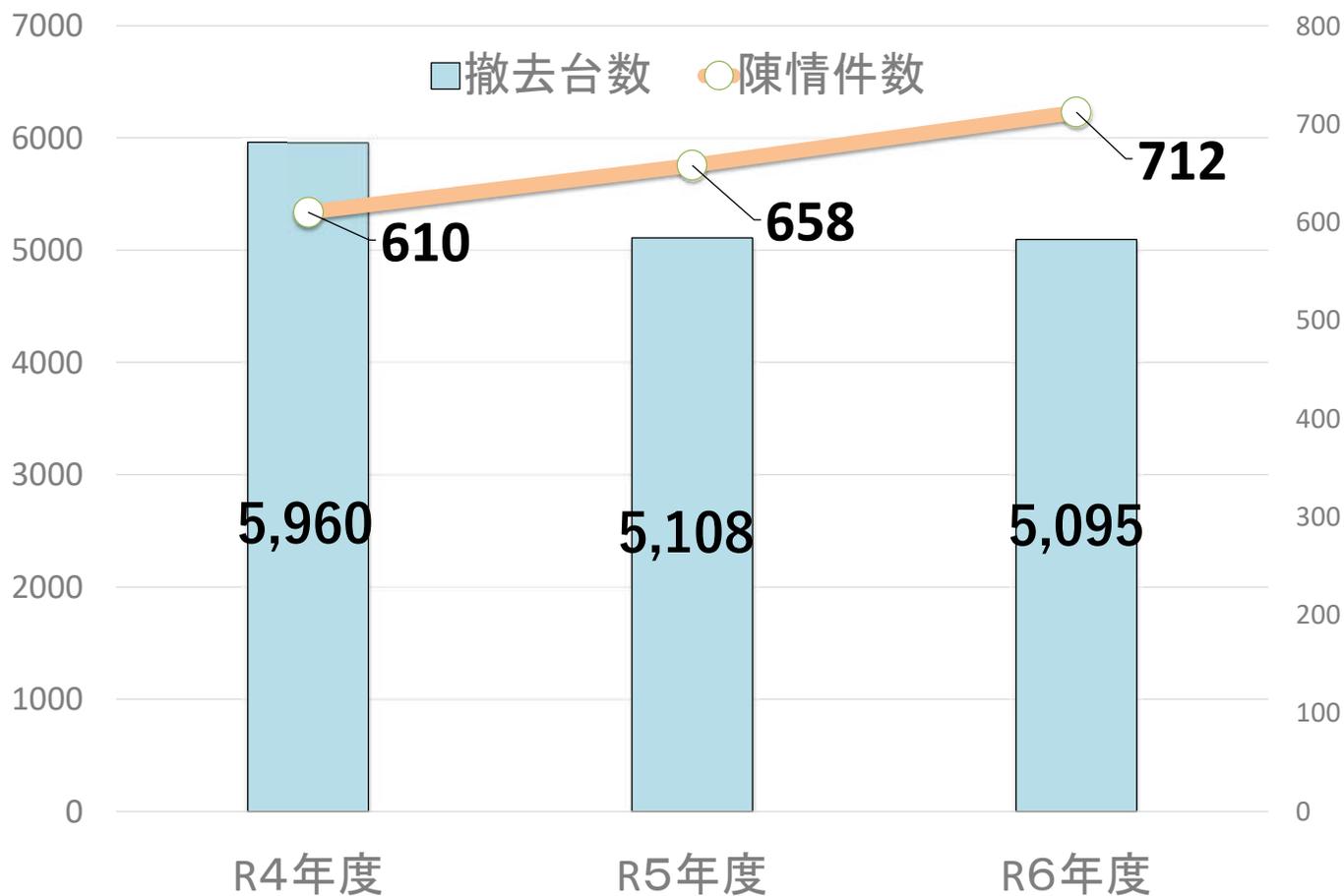
災害・救急



災害時の避難や消火活動、救急活動の妨げになる。

2.現状・課題

放置自転車の陳情件数・撤去台数



R6業者連絡件数
1日平均
3.0件



R6 撤去台数
1日平均
22.1台



2.現状・課題

陳情対応にかかる業務時間



約25分 × 3件 =

約75分/日

約25分 × 3件 × 242日 =

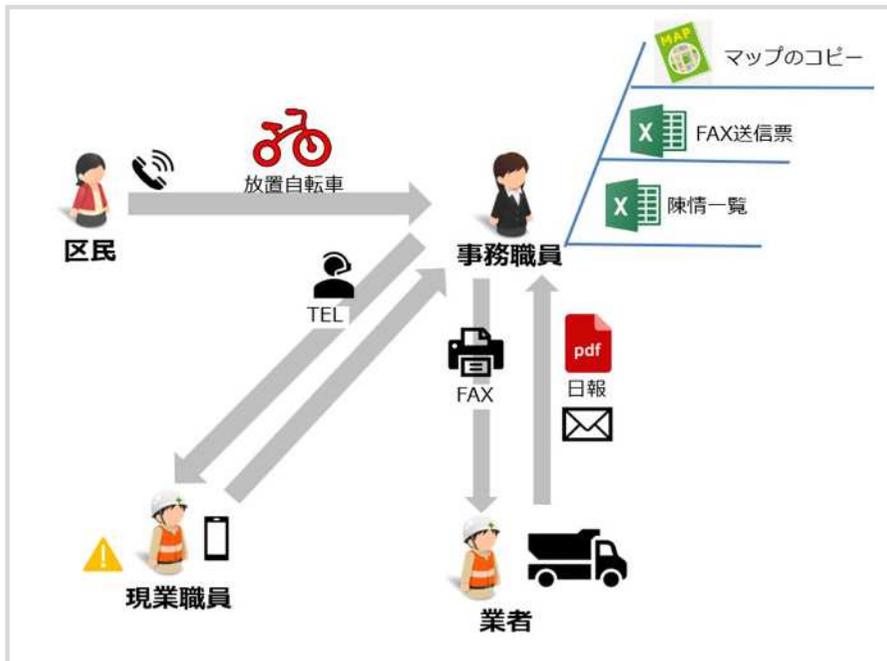
約302.5時間/年



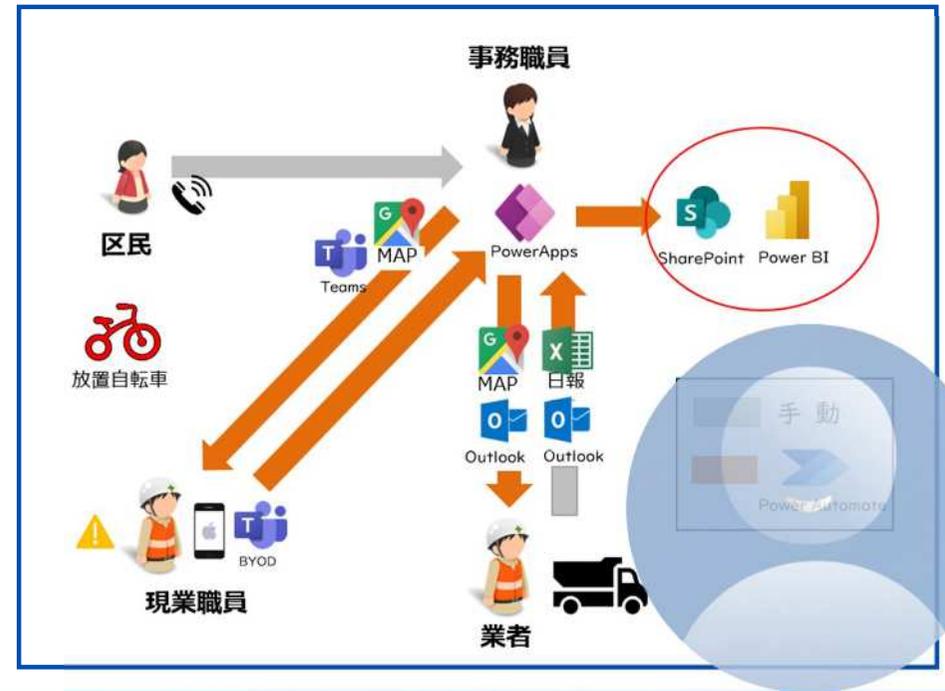
3. 業務改善

業務をDX化する事でデータ管理や分析が可能になりました！

BEFORE



AFTER



4.業務自動化アプリ使用方法

交通政策課依頼用アプリ

警告札貼付 (現業職員)

警告札貼付 (業者)

警告札貼付済みリスト (→業者への撤去依頼)

1

警告札貼付 (業者)

送信

情報受付日時: 2025/09/29 10:30

住所: 渋谷区 例: 幡ヶ谷 1丁目 番地 号

区域: 禁止区域

道路種別: 区道

台数: 1

自転車特徴:

要望内容: アイテムの検査

緊急度: 差急 通常

要望詳細:

ゼンリンマップ情報: ゼンリンページ: P、緯度: 、経度:

2

3

Workflows 経由の 下川 貴弘 05/02 12:29

整理番号: SBY-00179

住所: 渋谷区東2丁目

台数: 2

自転車特徴: 黒色スポーツタイプ

区域: 区域外

要望内容: 警告札貼付

ゼンリンマップ: ゼンリンページ: 50P、緯度: 3、経度: E

警告札貼付しました。 貼付しませんでした。

スレッドで返信

9月16日SBY-00412撤去要請

下川 貴弘

宛先: 下川 貴弘; shibuyacallcenter@shintei.co.jp

2025/09/16

このメッセージは「重要度 - 低」で送信されました。

お世話になっております。渋谷区役所交通政策課です。
以下の放置自転車に対して警告札の貼付をお願いします。

住所: 渋谷区恵比寿 1丁目 18番
ゼンリンマップ: ゼンリンページ: 55P、緯度: J、経度: 5
台数: 3
自転車特徴:
道路種別: 区道
区域: 禁止区域
要望内容: 撤去要請
要望詳細: 渋谷川通り沿いに常時 3 台ほど自転車が放置してあるので、警告及び撤去対応して
ほしいとのこと事です。よろしくお願ひします。
登録者: 下川 貴弘

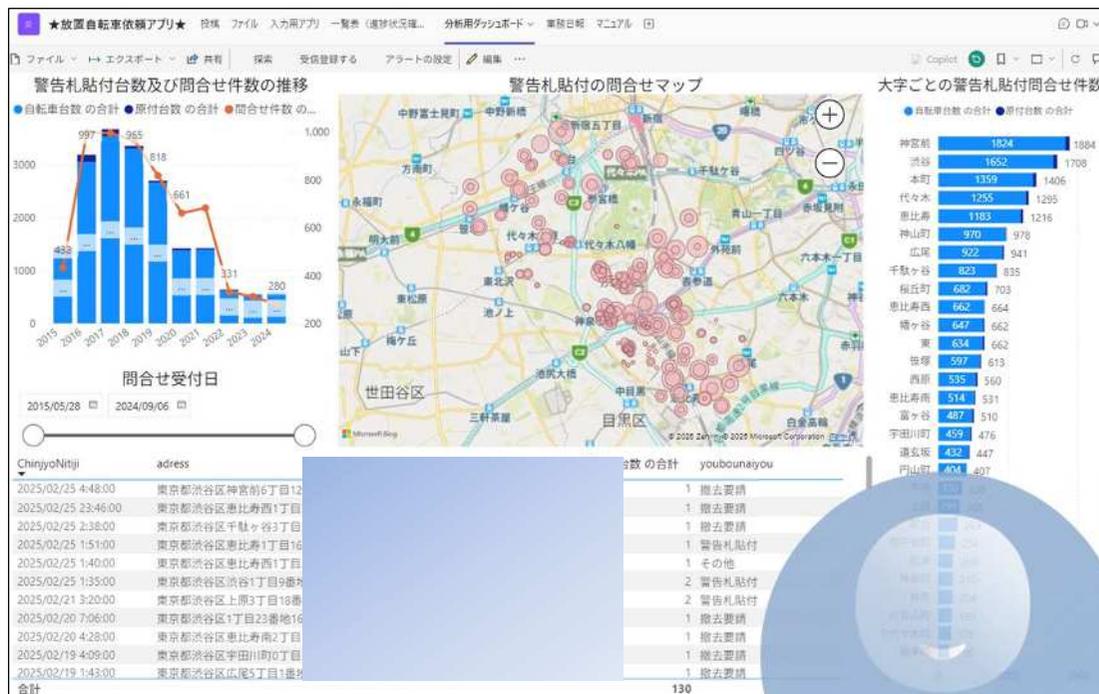
3

4.業務自動化アプリ使用方法

④データベース (share point)

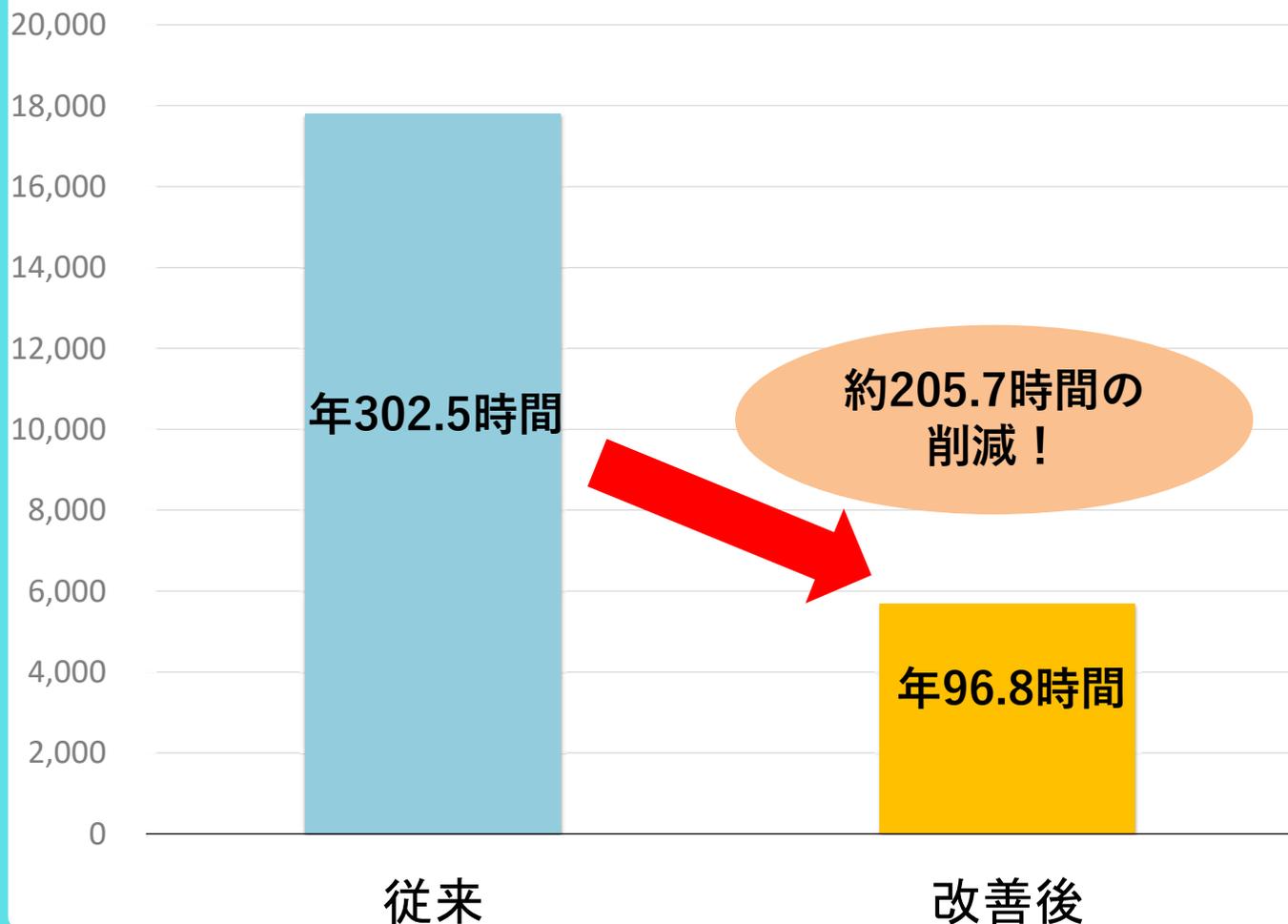
ID	名称	ステータス	住所
SP-0001	東京都渋谷区神宮前6丁目12番地	正常	東京都渋谷区神宮前6丁目12番地
SP-0002	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目	正常	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目
SP-0003	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目	正常	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目
SP-0004	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目	正常	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目
SP-0005	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目	正常	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目
SP-0006	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目	正常	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目
SP-0007	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目	正常	東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目

⑤ダッシュボード (Power BI)



5.成果

業務改善による年間の業務削減時間・メリット



4つのメリットの実現

①事務職の時間削減



②現業職の負担軽減



③委託業者の業務効率



④区民サービスの向上



6.大変だった点・皆様の感想

☑ 委託業者との調整

自動取込するメールの送受信方法など仕様書には盛り込まれていない業務の追加について、放置自転車撤去業者と何度も打合せを行い、フロー図などを活用して説明し、調整を行う。

☑ 現業職員や会計年度任用職員のBYODのインストール

ICTサービスデスクに相談し、アカウントを付与してもらう。
BYODの使い方に慣れるまで何度でも説明してサポートする。



《協力してくれた皆様の感想》



事務職員

・今まで地図をコピーしたりFAXを送信していたため、時間と手間が掛かっていたが、アプリにより業務時間が大幅に削減出来て良かった。



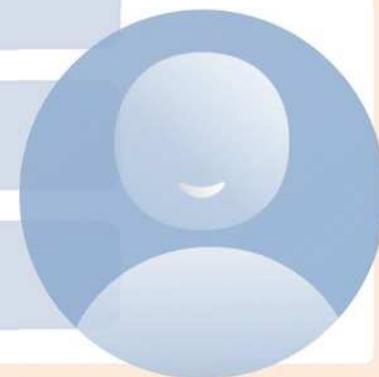
現業職員

・今までは自分のスマホに画像が溜まったり、業者から直接電話が掛かって来ていたが、今後は無くなりそうなので、嬉しい。



業者

・こちらのやり方をあまり変えることなく、業務改善の手伝いが出来て良かった。



GISを活用した避難行動要支援者支援システムの構築



GISと福祉総合システムの連携で
実現する“誰一人取り残さない”地域防災

業務改善部門

狛江市福祉保健部福祉政策課

システム概要

避難行動要支援者「管理」システム

基幹系

- 住基情報
- 障害手帳情報
- 介護保険情報
- 市職員のみ入力・閲覧

避難行動要支援者「支援」システム

インターネット系

- 地図情報
- 誰でも*入力・閲覧
- * 協定締結者のみ



随時連携

誰が、どこに住んでいて、どんな支援が必要かが把握可能！

GIS（地図）で「誰が・どこに」を見える化

- ✓ 情報の「見える化」
- ✓ 既存の体制とデジタルの融合

● **青丸**で要支援者を地図上に表示し、● **青丸**のアイコンを選択すれば、**本人情報や緊急連絡先を確認・編集**することができる。

凡例(平時)

●・・・要支援者

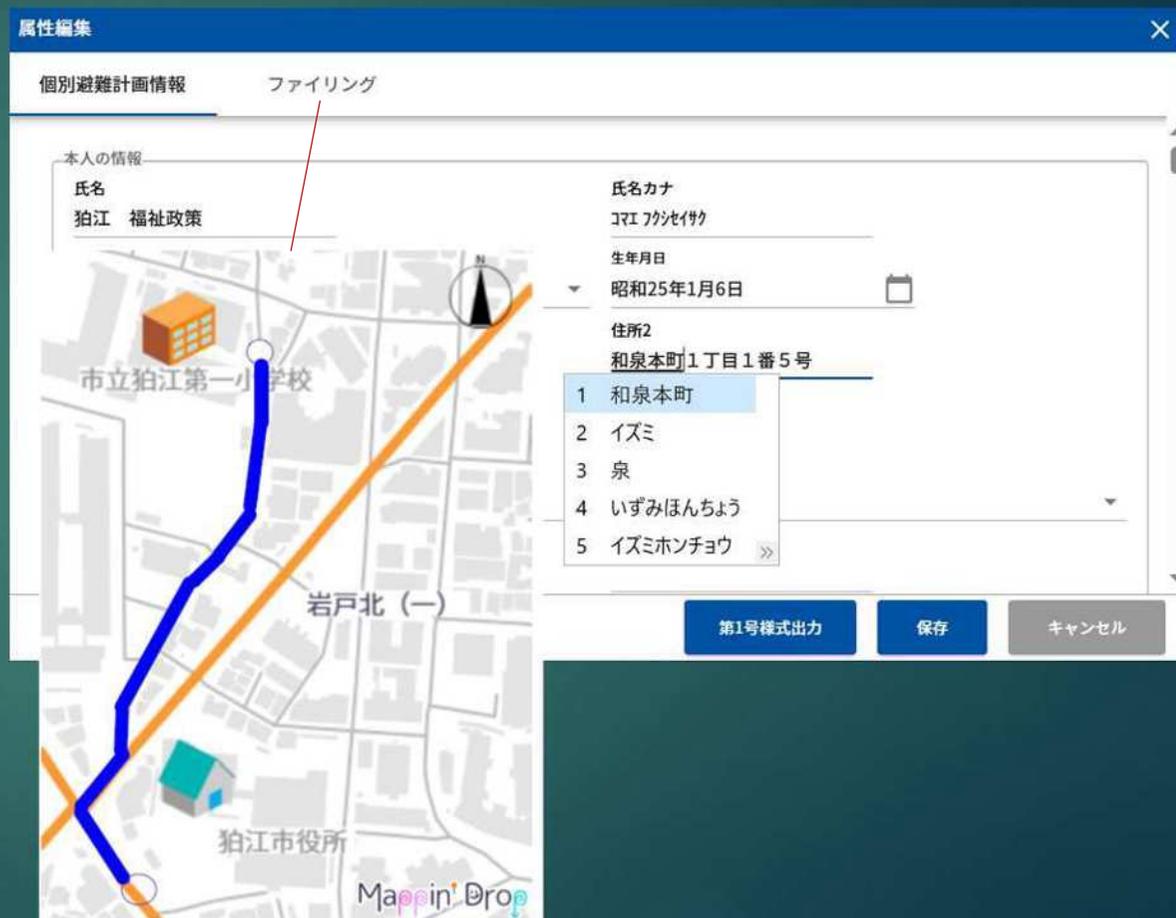


平時から「生きた個別避難計画」を活用

- ✓ 生きた個別避難計画（平時）
- ✓ 訓練にも活用できる
実践的ツール（平時）
- ✓ 避難ルートを保存・表示

※本人情報や緊急時の連絡先等を必要に応じて変更が可能

ファイリングタブには、地図に書いた避難経路を始め各種ファイル(pdf,jpeg等)を登録でき、地震・水害等の災害に応じた避難経路をシステム上に登録可能



災害時はタブレットが命をつなぐ道しるべに

- ✓ 災害発生と同時に
支援モードへ（災害時）
- ✓ リアルタイム安否確認

※「安否確認」済の方は☆青星で表示
同一のポイントに複数の要支援者がいて安否確認が済んでいない方がいる場合は、●赤丸と☆青星を重ねて表示
☆青星のみになった段階でポイントにおける要支援者全ての安否確認が完了
凡例(災害時)

●・・・安否確認未実施

☆・・・安否確認実施済

★・・・安否確認実施済・未実施混在



誰一人取り残さない地域防災へ

- 安否情報の「見える化」
- 要支援者と支援者情報の一元管理

平時の備え≡災害時の迅速な支援



実効性の高い個別避難計画



”誰一人取り残さない”地域防災へ



アナログ規制の点検・見直し における「Dify」の活用

膨大な点検作業を「Dify」で自動化！

業務改善部門

豊島区政策経営部情報政策課DX推進グループ

01. 取組の背景



デジタル化推進の必要性

本区では区政のデジタル化を推進すべく、昨年度末に「アナログ規制の点検・見直し」の取組み方針を決定しました。今年度から具体的な点検作業に着手し、条例・規則における規制項目の洗い出しが完了しています。



直面していた課題

各部局が十分な時間をかけて見直しの検討を行うためには、その前段の点検作業を速やかに、かつ、正確に実行することが求められていました。

しかし、点検の対象となる条例と規則は2,300件を超えるなど、その作業ボリュームの大きさが課題となっていました。

02. 1件当たりの作業工程

- ✓ 根拠となる上位法令の確認(+上位法令の名称も特定)
- ✓ 規制内容の特定
- ✓ 技術的中立性(デジタル活用を許容する性質の度合い)の判定
- ✓ 見直しの方向性の整理
- ✓ 代替技術・手法の例示
- ✓ 運用面での懸念事項の整理
- ✓ 規制見直しによる効果の判定

職員による作業の場合、
所要時間は10分～15分



AIアプリ化

03. 「Dify」による解決策

Dify

AIアプリ「Dify」とは

複数の作業工程をフロー形式で組み立てられるほか、自動でのバッチ処理が実行可能など高い機能性を持つAIツール。

使用イメージ

入 力

対象条例の条文と規制区分を入力。



分 析

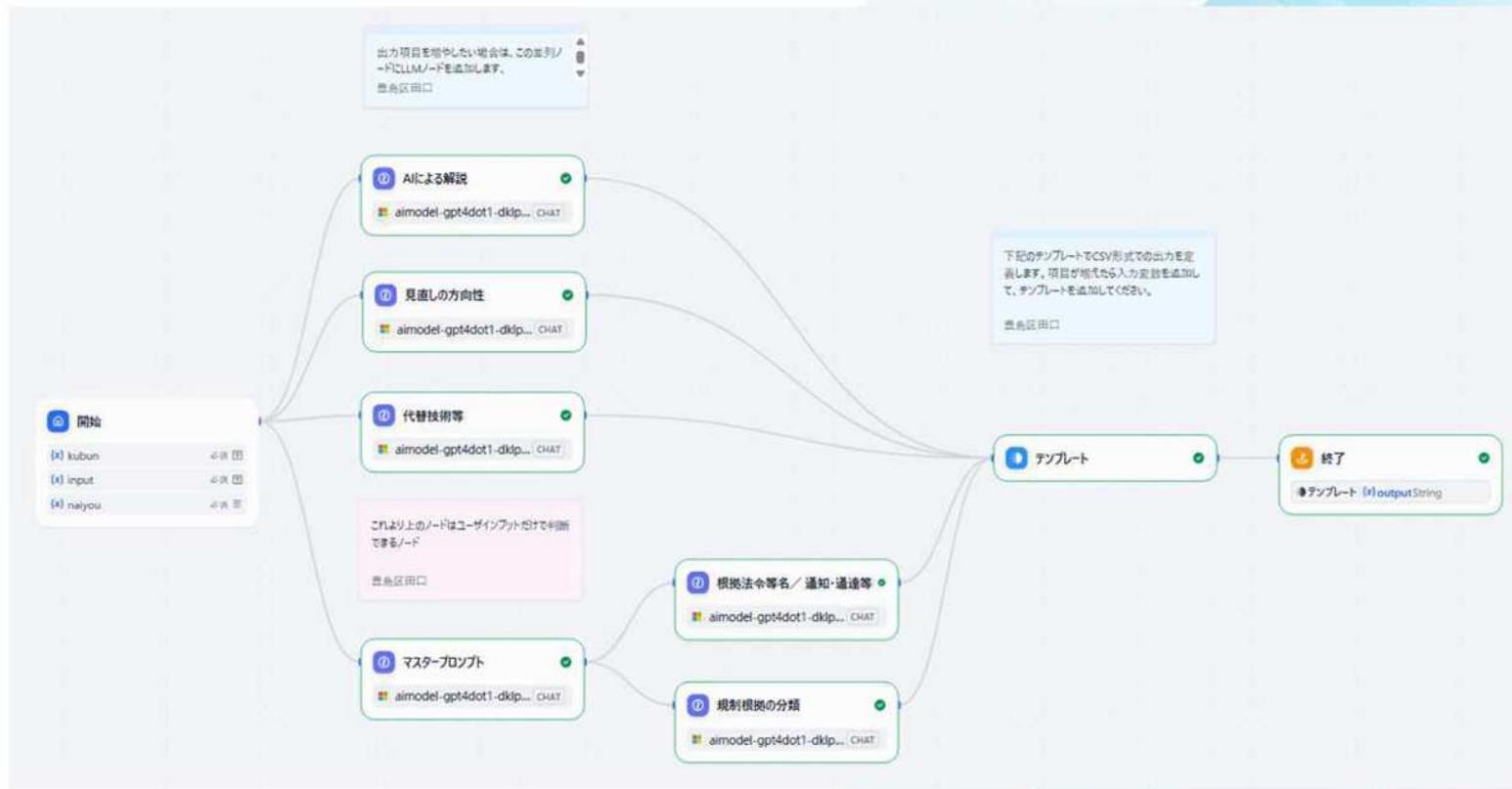
上位法令の有無、見直しの方向性、代替技術の有無、懸念点を整理。



出 力

対象の条文すべてを網羅した一覧を自動で生成。

04. ワークフロー設計



05. アプリ概要①

The screenshot displays a workflow application interface. On the left, a '開始' (Start) node is connected to three parallel nodes: 'AIによる解説' (AI Explanation), '見直しの方向性' (Direction of Review), and '代替技術等' (Alternative Technologies). Each of these three nodes is connected to a final node on the right. A pink box at the bottom left contains the text: 'これより上のノードはユーザー入力だけで判断できるノード' (Nodes above this are nodes that can be judged by user input alone) and '豊島区田口' (Togasaki, Tokyo).

A modal dialog titled 'テスト実行 開始' (Test Execution Start) is open on the right, highlighted with a red border. It contains the following fields:

- 変数 (Variables)
- 規制区分 (Regulation Category) with a text input field containing '入力してください' (Please input).
- 条例名 (Ordinance Name) with a text input field containing '入力してください' (Please input).
- 条例/規定内容 (Ordinance/Regulation Content) with a text input field containing '入力してください' (Please input).
- A blue button labeled '実行開始' (Start Execution).

At the bottom right of the screenshot, there is a red text overlay: '対象となる条例の情報を入力' (Input information for the target ordinance).

06. アプリ概要②



07. 生成イメージ

😊 アナログ規制の見直し (デジ庁)

1回実行 一括実行

規制区分

往訪・閲覧縦覧

条例名

豊島区手数料条例

条例/規定内容

(徴収の時期等)

第3条 手数料は、申請又は当該申請に係る書類の交付の際に、申請者からこれを徴収する。
2 既に納付した手数料は、還付しない。ただし、区長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。
(平12条例51・平18条例35・平20条例2・平27条例34・平30条例4・一部改正)

クリア

▶ 実行

対象となる条例の
情報を入力

POWERED BY Dify

≡ 並列-1D
プランチ-1D-A

- AIによる解説
- テンプレート
- 終了

結果 詳細情報

地方自治法、第224条・第227条.b,未庁・未訪が必須から、ウェブでの閲覧・ダウンロードやオンライン申請に切替え。添付書類が紙原本でも電子化して取り扱うことを許容する。電子申請、オンライン閲覧（HP、マイナポータル、専用DB）、申請者は、申請又は当該申請に係る書類の交付の際に手数料を納付することが求められています。見直しの方向性が「電子申請等への対応」とされている場合、現行条文の「申請又は当該申請に係る書類の交付の際」という文言は、アナログ手続に限定した趣旨とも読めるため、技術的中立性は明確に認められません。手数料の納付時期や方法について、「電子申請における納付方法」等も含め要領等で運用明確化を図ることは一定程度可能ですが、電子決済等の手段を条例上明記しない限り、電子化の円滑な運用には制約が残ります。申請者にとっては「申請時」に「納付」しなければ交付を受けられないため、電子化対応で利便性が向上する反面、現行文言のままでは電子申請・決済の利用範囲が限定されるおそれがあります。所管課は、電子納付やオンライン手続との整合性を確保するため運用規程等の整備を優先的に検討すべきです。しかし条例上に明記なき場合、電子化推進の実効性には限界があり、条例改正も視野に入れる必要があります。総合的に、見直しの方向性に沿って、電子納付への明確な対応を条例又は規則に規定することが妥当と判断します。

見直し結果

10. 工夫した点・苦労した点など

具体的な取組、創意工夫した点

- ✓ 大量データの一括処理の仕組み
- ✓ 質の確保
- ✓ 出力形式（CSV）の指定
- ✓ 点検ルート設計

苦労した点、課題やその解決方法

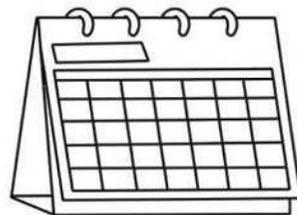
- ✓ 条例・法律の趣旨の理解
- ✓ 上位法令の特定
- ✓ 懸念事項の出力
- ✓ 情報処理の順番

11. 取組によって得られた成果・効果



394時間

削減時間



1/6

期間短縮



700万円

コスト削減

法改正

⇒手作業
AI-OCR
マクロ
AI搭載システム
標準化システム

法改正が あらわれた。
どうする? ▼

⇒ 助けを呼ぶ

しかし ベテランたちは 異動済で
助けに来ることが できない
助けを求める声は むなしく響き渡った

⇒ 逃げる

しかし 回り込まれてしまった
法改正からは 逃げられない!

法改正の無茶ぶりスケ ジュールをAIとデジタル ツールで乗り切ろう

これは単なる事例紹介ではありません。
組織のピンチを数々の汎用ツールを組み
み合わせ、現場予算ゼロ、チーム全員
で乗り切った業務変革物語です。



VOICEVOX:ずんだもん

業務改善部門
八王子市 市民部 市民課

トリプルピンチが襲い掛かってきた ~ラクしたがりおじさんの憂鬱~

- 年度当初に**ベテラン大量異動**
- 年度途中に**法改正に伴う大量事務発生が判明**
- 翌年度には**組織改正実施予定**
- 人的・時間的制約で、**現場はあきらめムード漂う**
- 私は配属3か月目のラクしたがりおじさん。**残業、手作業大嫌い。**

ラクしたがりおじさん(43歳)

職業 : 地方公務員
性格 : めんどくさがり
状態 : 妻と子供が恋しいので早く帰りたい
弱点 : 残業/手作業/知らない業務
スキル : 使えるものは何でも使う程度の能力
装備 : AI-OCR/VBAマクロ/生成AI
もちもの : デジタルツール/各種制度/おべんとう
属性 : インターネット老人会
経験値 : 市民課3か月目(ド素人)

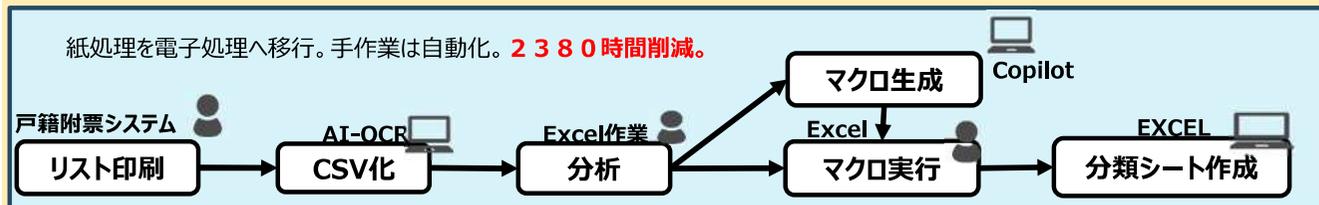
ツミノ・トリガー ~光を求めて~

法改正 ベテラン大量異動 組織改正の
三重危機から始まった 異動者生活が
記された ラクしたがりおじさん冒険譚

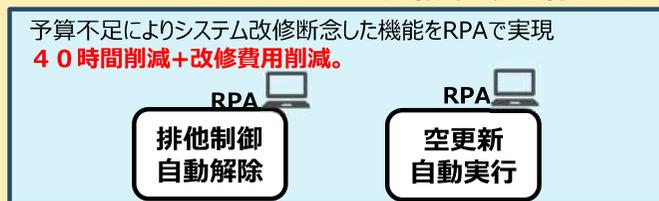
どう見ても レベル1の初心者が
ラストダンジョンに 放り込まれるような
詰みの状況から 物語が始まるが
AIやデジタルツールとの 出会いをキッカケに
おじさんの運命は 大きく動き出すのであった

作戦：汎用AI・ツールでいろいろやろうぜ ～スモールスタートのカノン（R6年度）

AI-OCR+ExcelVBA+生成AIによる大量エラー分析



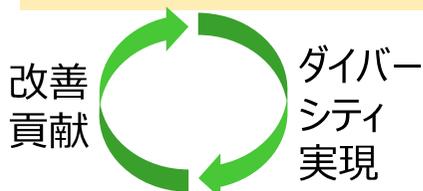
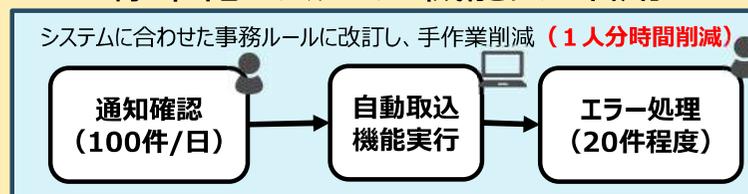
RPAによるシステム改修費用削減



AI搭載FAQシステムによる事務標準化



標準化システムの機能フル活用



視覚障害者活用



テレワークによる業務集中環境



庁内・庁外DXイベント参加（生成AI活用）



別業務のピンチも救え

-再現性のあるDXと変わり始めた空気- (R7年度)

【別業務の課題】

- ・デジタルが全く浸透しておらず紙処理と手作業が多い。
- ・業務全体が見えない。窓口職場なので情報を整理する時間がない。
- ・会計年度職員が多く、毎日誰か不在で情報共有がしきれない。

「DXスキルってのは 便利だな
一度身につけてしまえば
いろんな場面で 役に立つんだからな」

取組	活用ツール・手法	得られた効果・成果・状況
業務自動化	RPA、ExcelVBA、生成AI (Copilot)、AI音声合成ソフト	定型作業の自動化により、 月次作業が10日→3日で完了。日次作業を30分削減。 内製ソフトにA I 音声によるアナウンス機能を追加し、進捗把握が容易に。 現在新人も活用中で、VBA 2本、RPA 1本作成済み。
業務整理、見える化推進	テレワーク	窓口業務から切り離し、業務の棚卸、資料整理により業務見える化推進。職員の業務振り 返り時間にして、業務知識定着方法として活用。 テレワーク活用者3名増。
ナレッジ蓄積	AI搭載FAQシステム	マニュアルだけでは対応しきれない事例や個別事案等、ナレッジを蓄積
職員会議	Word (文字起こし機能) + 生成AI (Copilotによる要約)	業務課題の整理・共有、会議録作成の効率化、書記係廃止による全員参加型会議の実現 書記削減効果：24時間、文字起こし削減：72時間、会議録作成削減：24時間
業務フロー図作成	生成AI (Copilot) による業務資料要約 WEB研修システム (業務フロー図作成の知識を得て業務へ活用)	全体の業務フロー図を作成し、ボトルネックとなっている作業を洗い出し、改善。課長への報告 にも活用し、業務改善ツールとして利用 (課長より 課題がわかりやすくなったと評価された)。
業務課題分析	生成AI (Copilot)	チームの課題や、チームメンバーの特色を伝え、解決策やチームの方向性についてのアイデア 出しに利用。特にテレワークと一緒に使うことで効果倍増。
Teamsによる情報共有	Teams	課題共有・情報共有の効率化。伝達漏れ防止による業務標準化
生成AIの実演と普及	生成AI (Copilot)	生成AIの活用方法を積極的に発信したことで、チームメンバーが生成AIに興味を持つようになり、 全員が生成AIを利用することとなった (生成AI利用者3名増)。
レガシーコード分析・修正	生成AI (Copilot) + ExcelVBA	2世代以上の前任者が作成したVBAを解析、修正案を作成。 4日で改修委託仕様書作成

別業務においても、「ツール使い分け×スモールスタート×複数展開」で業務全体の効率化を実現。

若手がAI活用に興味を持ち始め、Copilotを使い始めました。

ありふれたAI・ツールで効率最強 –組み合わせたらラクになった件について

成果分類	活用AI・デジタルツールと成果内容	
業務効率 (D)	AI-OCR+ExcelVBA+生成AIによる大量エラー分析：2380時間削減 RPA：40時間削減+システム改修費用削減 AI搭載FAQシステム：ナレッジ300件蓄積、事例調査時間短縮、引継ぎ効率化 標準化システムの機能フル活用：職員1人分時間削減	全体で職員2人分 時間削減
業務環境 (X)	テレワーク：思考時間創出、改善実現アイデア検討、業務理解度向上、業務整理 生成AI：業務支援（特にテレワーク時の相談相手に最適） WEB研修システム：DXスキル・事例習得	
DX文化定着 (X)	DXイベント：職員挑戦意欲向上、DX事例蓄積・定着。GTT共同調達プレゼン登壇 生成AI：プレゼン資料作成負担軽減、資料の質向上 AI音声合成ソフト：プレゼン資料・内製システムに組み込みUX向上	
人材活用 (X)	テレワーク：育児世代戦力維持（学級閉鎖時なども業務継続可能） スクリーンリーダー：視覚障害者戦力化（軽作業→市場調査等の適正業務へ転換） 共通事項：配慮対象から能力に応じた最適業務へ転換（全員活躍型組織への変革）	

「一つの道具では効果が小さくても 組み合わせで
大きな効果を 発揮することができるぞ。」

AIとデジタルツールが 仲間に 加わった
八王子市のDXレベルが 上がった！

この都の果てでAIを謳う職員 -YUNOUなAIBOU

分類	活用AI	活用方法、成果など
効率化 (D)	生成AI (Copilot)	VBAコーディング、レガシコード分析&コード修正 文章要約、文章校正、業務課題分析&解決手法提示
	AI-OCR	書類電子データ化 (他ツールと組み合わせ2380H削減)
	AI搭載FAQシステム	事例調査時間短縮、引継コスト削減
変革 (X)	生成AI (Copilot)	プレゼン資料作成負担軽減&相談&評価 テレワーク時相談相手、各種アイデア出しなど
	AI-OCR	電子処理メインの業務フローへ移行
	AI搭載FAQシステム	ナレッジ引継手法変革と消失防止
	AI音声合成ソフト  VOICEVOX:ずんだもん	プレゼン資料音声組み込みによるプレゼンUX実現。 内製ソフトへの音声組み込みによるUX実現&内製ソフト 活用定着。自ら楽しむDXの実現 (自分事化の到達点)

「AIの活用方法は一つじゃないぞ
汎用AIであっても その使い方はお主次第
AIは お主の有能な 相棒なのじゃ」

「DXの道は 一人では 長く 厳しい
しかし AIと共に歩めば ラクを謳歌できる
目指してみるかね? DXの道を」

ピンチを乗り越えた4つの力 -光の4戦力

私たちの成功要因は

「**職場風土**×**チーム力**×**AI・デジタルツール**×**支援制度**」の相乗効果

成功要因	内容
職場風土	「まずやってみよう」「ルールは柔軟でいい」といった挑戦を後押しする文化。課長・主査によるDXマインドセットの浸透。
チーム力	多様なスキル・世代が集まり、自由な雰囲気の中でそれぞれが得意分野を活かして貢献（一人で業務とDXを担うのは不可能なので、得意分野を出し合う）。
AI・デジタルツール	AI-OCR、ExcelVBA、RPA、生成AI、AI搭載FAQシステムなど目的に応じた汎用ツールを柔軟に選定・活用。業務の定型化・効率化を実現。
支援制度	デジタルツール環境整備（デジタル推進課）と人材育成制度（職員課・デジタル推進課）をフル活用して知識と実践を両立。

挑戦を後押しする職場の**風** **火**のごとき熱量を生む**チーム力**
水のような柔軟性をもつ**デジタルツール** **土**台を支える**支援制度**
4つの力が合わさる時 **危機**を突破する **希望の光**となるだろう

職場風土×チーム力

「パーティは バランスが 大事なんだぜ
そして パーティスキルには DXマインドセットが
おすすめだ。全員の能力が 強化されるぞ」

メンバー	特徴・強味	DXマインドセット	貢献ポイント
課長	やりたいことを応援 部下への声かけ	ルールは柔軟でいい	主査と連携し、挑戦できる空気を 組織に浸透
主査	発想に寛容 信じて任せる	まず試してみよう	チームに自由な雰囲気を提供し、 個々の工夫が伸びる土台づくり
ベテラン	システム知識 現場経験が豊富	新技術導入にも偏見なく 向き合う	AI-OCRなどの新技術導入に反対せず 安定運用を支える技術支援
若手A	仕様書読解、整理力 情報共有、吸収力	構造理解と整理力で支える。 事例から学ぶ適応力	難しい仕様書から作業を抽出。世 代を超えて、私に業務を教えた。 私に続いてRPA、AI-OCR利用開始、 技術波及に貢献。
若手B	市民課経験豊富	積極的ナレッジ共有	AI搭載FAQシステム事例登録 (8割以上を入力)
視覚障害者	前向きな性格と挑戦意欲	あくなき向上心、積極性	先進事例収集
私 (育児世代)	ラクしたがりおじさん デジタルツール活用 分析力	ラクしたいから道具と仕 組みを使い倒す	途中参画で業務分析&AI・デジタル ツール活用による業務定型化と効 率化。DX文化定着。

デジタルツール×支援制度

「お金が無くても 乗り切れる方法は あるわ
まずは あなたを支えてくれる
仕組みや制度を 確認するといいわよ」

活用AI・デジタルツール一覧

デジタル推進課提供	生成AI（Copilot）、AI-OCR、AI搭載FAQシステム、Excel VBA、RPA、Teams
職員課提供	Web研修システム、スクリーンリーダー
その他	標準化システム、AI音声合成ソフト（VOICEVOX：ずんだもん）

支援制度	提供部署	活用内容・効果
東京都市町村研修	職員課	デジタル活用のための基礎を習得。VBA研修は受講10年越しで実戦投入
自主研究制度	職員課	3万円の助成金を使いデジタルツール活用の知見を獲得。実運用前に“使える／使えない”を見極めることができた。
Web研修システム	職員課	DXの体系的な知識を習得。 事例を知ることによりツール選定の参考となった
デジタルツール環境整備	デジタル推進課	現場導入ハードル激減。プロジェクト着手から短期間で成果を出せた。利用希望から1・2日程度で利用可能に。
IPA資格取得支援 +資格助成制度	デジタル推進課 職員課	知識体系が明確になり、ツール選定や業務改善案の説得力が向上。私はこの制度と自主研究+Web研修システムとの合わせ技でITパスポートに合格。

DXセンセーション MultiLayer -私とみんなで作ったDX-

八王子市DXの特色

汎用AI、デジタルツールの多層展開

スモールスタートの多層展開

チームメンバーの得意分野を多層展開

職場風土×チーム力×AI・デジタルツール×支援制度の相乗効果

現場予算ゼロの再現性抜群DX

AI、デジタルツール活用者増加中の文化定着型DX

育児世代、障害者関係なく活躍できる全員活躍型DX

詰みの状態をトリガーにした危機突破型DX

「この町は 昔 法改正の脅威に 絶望しておった
じゃが その時の経験から デジタル活用が盛んになってな
今や デジタル活用は すっかり業務の一部になっておるんじゃよ

なに？ その時の冒険者は どこに行ったのかじゃと？
確か Tokyo区市町村DXaward出場の為 旅に出たらしいぞ」

「私は旅の吟遊詩人
この町に伝わる うたを うたいましょう

♪ DXが いくつも 重なり合って ♪
♪ あなたと 一緒に ラクができた ♪

ツミノ・トリガー
～光を求めて～

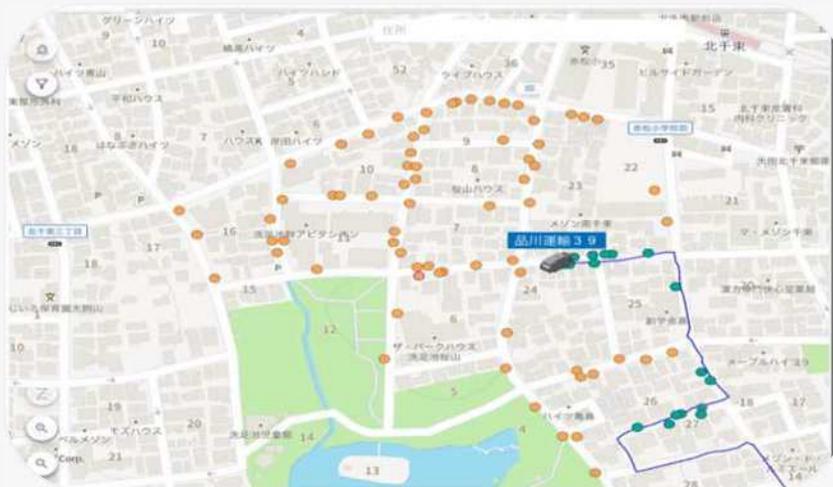
完

To Be Next DX-Story



資源プラスチック回収事業 における運行管理システム の導入による清掃DX

収集運搬業務のデジタル化により
業務の効率化・最適化を実現



業務改善部門

大田区資源環境部ごみ減量推進課

事業概要

大田区の実施



✓ 可燃ごみとして回収していたプラスチックを資源として回収開始

目的

✓ CO2の排出削減による環境負荷の低減

✓ ごみの減量化

実施時期

	実施期間	対象世帯数
第Ⅰ期	令和4年11月から令和5年9月まで	約2万世帯
第Ⅱ期	令和5年10月から令和7年3月まで	約12万世帯
全域実施	令和7年4月から	約42万世帯

背景と課題

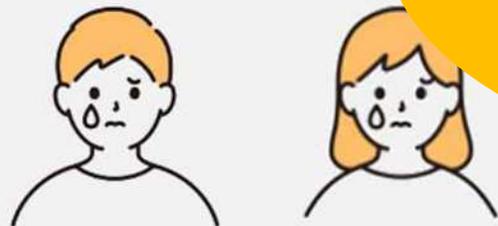
背景

- ✓ 清掃業界全体としてアナログな業務情報の管理
- ✓ 高齢化社会や労働人口の減少により、将来的な収集運搬業務の担い手不足への懸念

課題

1

人手不足・属人



清掃事業全体の人手不足や
収集ノウハウの属人化

持続可能な清掃事業

新たに始まるプラスチック回収において、回収量の把握が困難であり、最適なルートや車両台数の把握が困難



業界の問い合わせに
適切な回答



リアルタイムに回収作業を把握することが出来ず、迅速かつ的確な回答が困難

解決策および3つの導入効果



運行管理システム（WOOMS）を

導入することで、3つの課題解決に寄与



Before 課題

1

人手不足・属人化



2

最適な回収ルートや
適性車両の把握が困難



3

回収作業の問い合わせに
対する適切な回答が困難



After 導入効果

1

作業効率化による
人手不足・属人化の解消



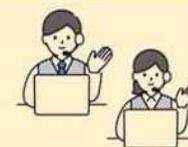
2

回収量を正しく把握し
費用削減・環境負荷低減



3

適切な回答による
区民サービスの向上



導入効果

1. 「作業効率化による人手不足・属人化の解消」



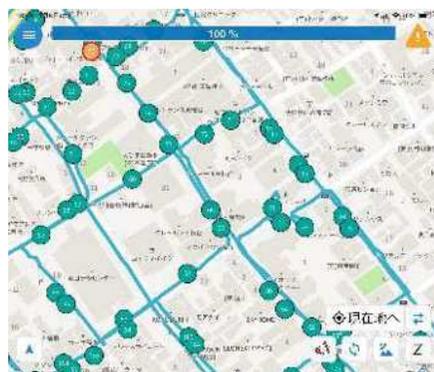
① 運行ルートのデジタル化

Before



回収ルートの紙地図

After



システム上のルート

運行ルートをデジタル化することで、
ルート変更への柔軟な対応が可能

② 日報のデジタル化

Before



紙の日報

After

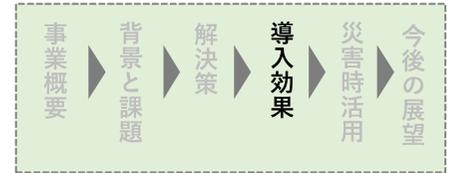


電子日報

- 日報をデジタル化することで、**日報作成・提出作業の手間と時間を大きく削減**
- ペーパーレス化にも寄与

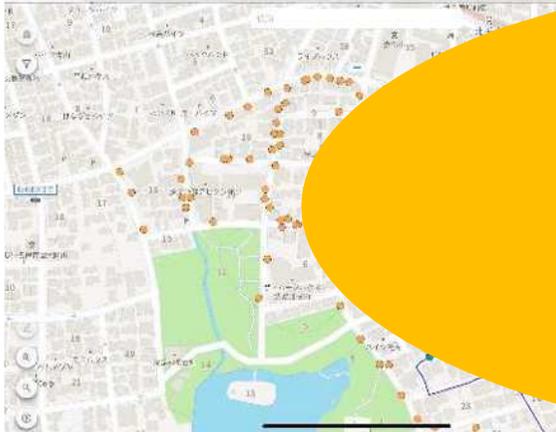
導入効果

1. 「作業効率化による人手不足・属人化の解消」



③回収状況の可視化

After



回収状況の可視化

車両搭載のタブレット端末のGPSにより車両の位置をシステム上で可視化のうえ、作業の進捗を確認し、遅延が発生している場合は、応援を出すことも可能

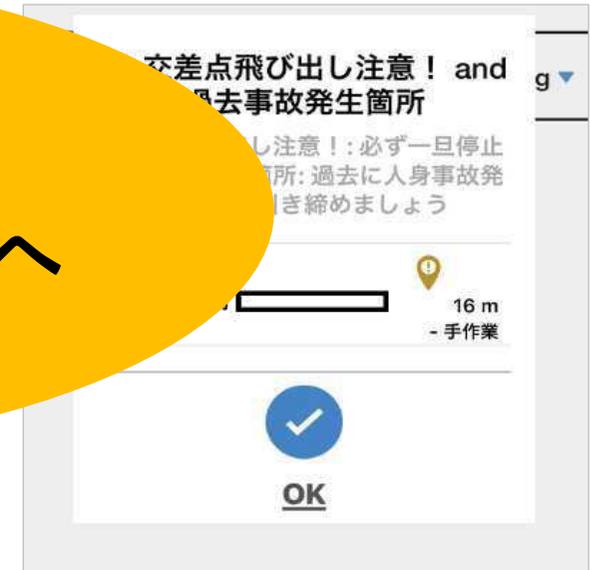
「単独」作業から
「チーム」の作業へ

回収時間の可視化

車両の移動速度を検証し、各作業の時間を算出することで、適切な業務時間の把握が可能

④ナレッジ共有による属人化の解消

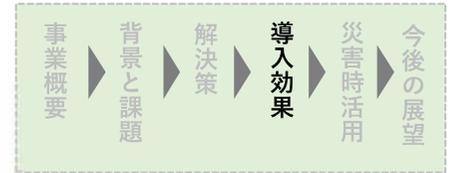
After



ポイントに近づくと、集積所や交通に関する情報をポップアップ表示するので、現場に慣れない運転手や作業員も安心して作業ができるようになった

導入効果

2. 「回収量を正しく把握し費用削減・環境負荷低減」



作業台数の削減

Before



25台

After



21台

車両 **4** 台、約 **8,000** 万円
の削減

運行実績から集積所1か所あたりの作業時間や回収量を正しく把握し、適性車両台数を算出

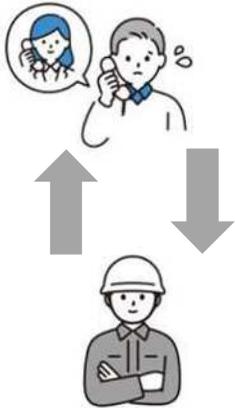
導入効果

3. 「適切な回答による区民サービスの向上」



① 運行状況の案内

Before



現場へ電話

After



パソコン上で把握

回収有無の問合せに対し、運行状況を確認することで、回収済みか否か、否であれば目安の回収時間を伝えることが可能

② 不適正排出への対応

Before



紙

After



デジタル

- 不適正排出に対して、作業員が撮影、画像データを区役所と回収現場がリアルタイムで共有
- 回収できず残った排出物に関する問い合わせに対して、迅速かつ的確な回答、さらにその場での啓発が可能に

災害時における活用

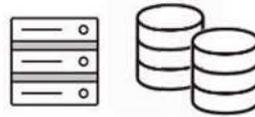
✓ 他部署との災害情報の相互共有



ごみ減量推進課



運行管理システム (WOOMS)



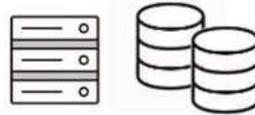
道路異常や浸水被害の
情報を登録

WOOMSを参照

防災危機管理課



総合防災情報システム



WOOMSに
情報を登録

災害箇所や被害箇所の
情報を登録



災害箇所や被害箇所の情報を
回収現場で活用



通報情報の確認
に活用

今後の展望



01

横展開



プラスチック回収だけでなく
資源回収（古紙・かん）など
他品目回収への拡充を展開する

02

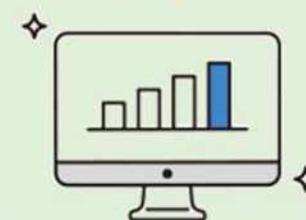
他部署連携



災害時を始め、不法投棄や道路異常
などの情報を他部署と共有すること
により、収集以外での**幅広い活用**を
図る

03

アップデート



更なる作業効率化に向けて、
民間事業者と官民連携のう
え、**アップデート**

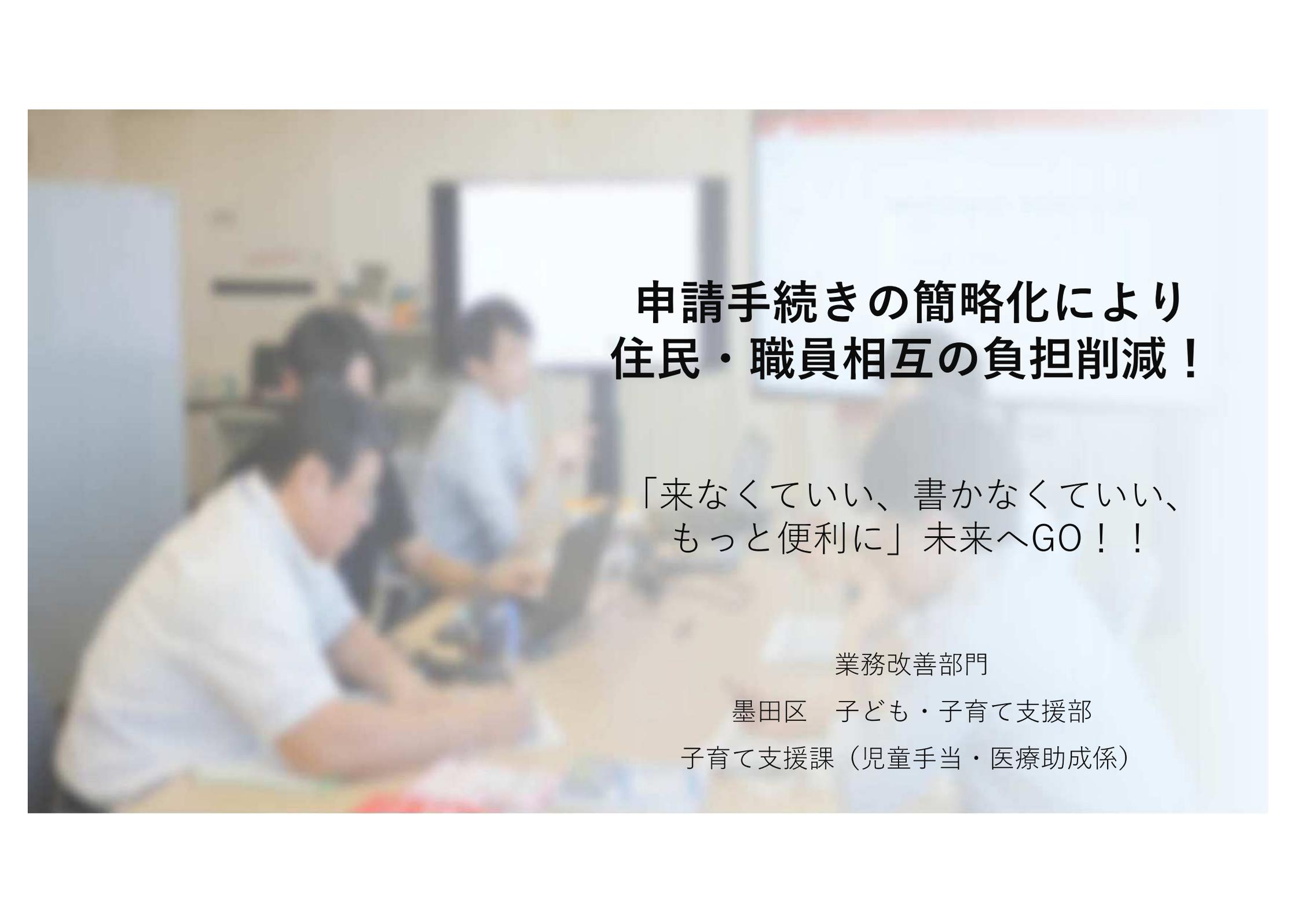


現場と事業課で連携のうえ、さらなる業務効率化を目指しアップデートしていきます

ご清聴ありがとうございました



©大田区



申請手続きの簡略化により 住民・職員相互の負担削減！

「来なくていい、書かなくていい、
もっと便利に」未来へGO！！

業務改善部門

墨田区 子ども・子育て支援部

子育て支援課（児童手当・医療助成係）

経緯・背景

子育て世帯のニーズはオンライン申請だが、子育て関連手続きのほとんどが紙申請だったため、DX推進が急務だった

一方、区職員のDX意識が不足し、何をすべきか不明確だった

- 
1. 職員のDX意識醸成
 2. 自己解決の機会提供
 3. ワンストップ／ワンズオンリーの実現

取組①：職員のDX意識醸成

DX検討会の開催

各手当の担当から1名ずつで構成されるDX推進チームによる「DX検討会」を令和5年度から継続して実施

01

目的共有

住民サービスの向上
×
職員の負担軽減

02

現状分析

- 顧客のインサイト分析
- 業務フローの作成

開始

処理

分岐

03

課題抽出

- 課題抽出フレームワーク
- KJ法による課題分析
- 工数計算表

課題

情報発信・PRの強化

- ホームページの更新
- SNSの活用
- 動画等による発信

デジタル化の推進

- 申請／書類の電子化
- デジタル機器の設置
- デジタル技術の導入

- **自己解決の機会提供**
- **ワンストップ/ワンズオンリーの実現**



取組③：ワンストップ／ワンズオンリーの実現

「来させない窓口」

- ほぼ全ての申請手続きをオンライン化

「書かせない窓口」

- 一度の情報入力で複数手当の申請が可能
(最大5枚の申請書記入が一回で完了)

POINT

- 既存のデジタル技術を活用
(ぴったりサービス・LoGoフォーム)
- ICT推進担当等との連携

インターネット
申請はこちら

- ▼ 受給資格 ▼ 所得制限 ▼ 手当の月額 ▼
- ▼ 時間経過による一部支給停止 ▼ その他の手

受給資格

申請方法

該当する申請内容のリンクを選択し、入力をしてください。	
墨田区でひとり親手当を初めて申請する方	ひとり親手当の認定請求(外部サイト)
住所変更・氏名変更等登録内容に変更のある方(口振変更を除く)	ひとり親手当の変更届/更新申請書(外部サイト)
登録している口座を変更する方	口座振替依頼書(外部サイト)
転出・帰籍等支給対象に該当しなくなった方	ひとり親手当の廃止届(外部サイト)
児童扶養手当証書を紛失された方	児童扶養手当証書の再発行届(外部サイト)
受給者や児童の死亡により、未払請求のある方	受給者死亡届本払請求書(外部サイト)
ひとり親手当の認定・変更・喪失に係る不足書類を提出する方	不足書類の提出(外部サイト)



取組による効果

申請書
記入回数

オンライン
申請件数

残業時間

最大5回が

1 回に

年間

7 倍

繁忙期換算

42 %減

※ 児童手当、児童扶養手当、児童育成手当、子どもの医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成の最大5回

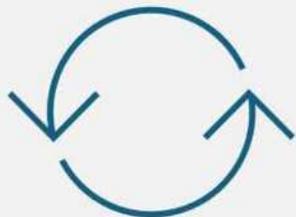
※ 年間約300件が約2,100件に増加



職員主導の取組のため、ゼロ予算で実現



既存システムを活用しているため、横展開が容易



主体性を持ち、チームで進めるため、高い継続性

① 職員のDX意識醸成

② 自己解決の機会提供

③ ワンストップ/ワンストップ オンリーの実現

- ✓ 職員のDXに対する意識・知識不足
- ✓ 原則、来庁による申請で区民の負担大
- ✓ 一度の申請で最大5回の記入
- ✓ オンライン申請件数が少ない
- ✓ 業務効率化が不十分で残業が多い

- ✓ 職員のDX意識が強まり、主体性が向上
- ✓ ほぼすべての手続きをオンライン化
- ✓ 1回の入力で申請が完結
- ✓ オンライン申請件数が7倍に
- ✓ 残業時間が繁忙期換算で42%減

職員主導の取組のため、ゼロ予算で実施可能
汎用ツールによる構築のため、横展開が容易

▶ チーム対応で持続可能に

1. 処分通知のオンライン化

- 電子署名を付与した認定通知書等の発行
- ICT推進担当と連携した実証実験

2. 他部署との連携強化

- 窓口課と連携した「来させない窓口」の周知

3. 組織的なDX推進体制の構築

- チーム全体での取組を継続
- 持続可能な管理・運用方法等の検討



引用：
東京都HP
#デジタル
10か条



ひと、つながる。
墨田区

ご清聴ありがとうございました

A photograph of a nursery room with children playing. In the foreground, a young boy in a green shirt is building with colorful LEGO bricks. To his left, a baby in a white shirt is crawling. In the background, another baby in a yellow shirt is sitting on the floor, and a person's legs are visible. The room has wooden shelves and a play mat.

市LINE公式アカウントを活用した 子育てひろばの予約受付

9,100件の電話対応がゼロに！
保育現場の“あたりまえ”からの脱却



府中市LINE公式アカウント

業務改善部門
府中市政策経営部行政経営課

課題 (Before)

職員



予約開始日は**電話対応**が集中し、慌ただしくなってしまう



受付台帳から当日名簿の作成など、**苦手な事務作業**に追われる日々



改善したい気持ちはあっても、どうすればよいかわからず、時間だけが過ぎていく...

利用者



予約したいのに、なかなか**電話がつながらず**何度もかけ直すことに...



あとで電話しようと思っていたら、**受付時間が過ぎてしまい**予約できなかった

課題解決へのプロセス

現場の悩み



電話対応を
なんとかしたい

保育士

提案



LINEを
活用できるかも

行政経営課

決断



DX頑張っ
てみる！！

保育士

-2M

業務フローの
洗い出し・見直し



現場の
決断!!

-2~1M

要件定義・構築



構築費
0円!

-1M~

検証・テスト



START

完成・公開



LINE公式アカウントを活用した 予約の完全自動化が実現

LINE予約のしくみ(利用者)

1

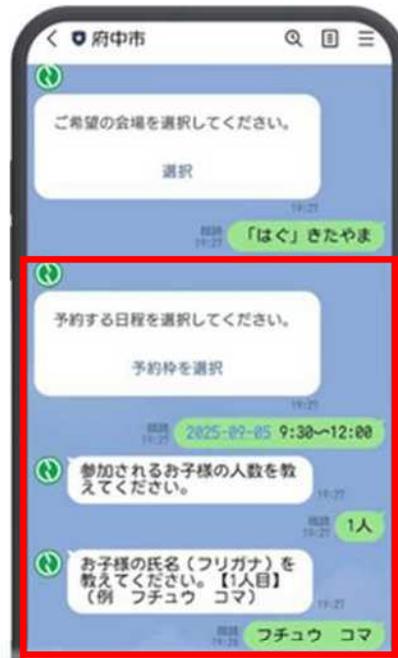
メニュー選択



府中市LINE公式アカウントを開き、**該当メニュー**を選択

2

質問に回答



一問一答形式で、必要事項を入力

3

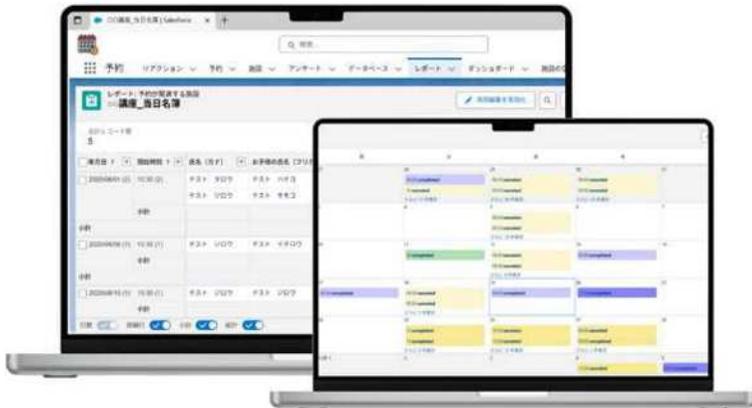
予約完了



時間・場所にとらわれず、**24時間いつでもどこでも**予約が可能に！
キャンセルもLINEでOK

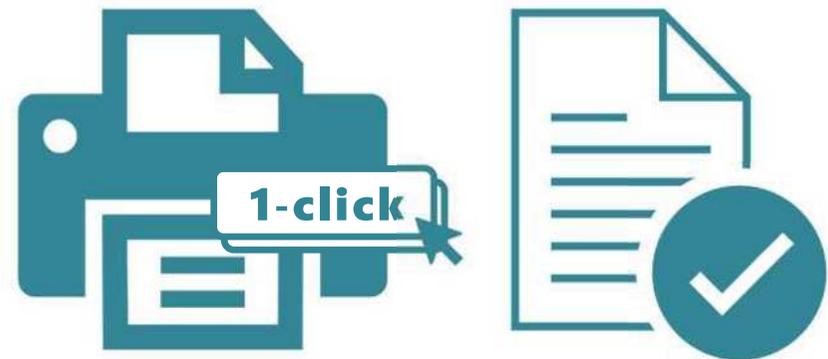
LINE予約のしくみ(職員)

予約管理



- ✓ 予約状況が一目でわかるため、事前準備もバッチリ！
- ✓ カレンダー表示で月ごとの混雑も視覚的にリアルタイムで把握！

業務効率化



- ✓ ワンクリックで名簿印刷可！
- ✓ 当日受付台帳も手書き作業が不要になり、現場の負担が大幅に軽減！

LINE予約のしくみ(利用者・職員)

フォローアップ



- ✓ LINEで直接やりとり、電話不要で対応時間短縮！
- ✓ 利用者の都合に合わせて返信OK！

リマインド通知



- ✓ 開催日前日に自動通知
- ✓ 「うっかり忘れ」防止で、無断キャンセル減少！

アンケート



- ✓ LINEで簡単に実施！
- ✓ 利用者の本音を聞き、業務改善や現場の課題発見につなげられる！

利用者・職員どちらにとっても“Win-Win”の運用が実現！

PC作業が苦手な職員でも使いやすく、毎日スムーズに活用できるしくみ

成果(After)

R6年度実績

予約電話9,100件/年 → 0件に激減!

15,000件

(キャンセル含む利用件数)

導入前

導入後

1,250時間の削減

利用者が
1.3倍に増加

満足度
90%以上

90%以上が
満足と回答

職員の負担軽減
&
利用者とのかわりの
時間の創出

導入以降、利用件数は増加中!

現場の声



LINE導入で変わった

地域子育て支援センター

「はぐ」

LINEを開けば なんとかなる

そんな安心感のある子育て支援を
現場とともに育てていきます

利用者の「必要な情報がここにある」という入口へ
現場の声を活かし、利便性と信頼性を両立した支援へ



AI DX支援職員の全庁導入

申請の『最初の壁』を、
AIとガバナンスの融合で
爽快に突破する。

業務改善部門

世田谷区DX推進担当部DX推進担当課

次のスライドで動画を再生します。





年間12,000箇所のチェック

『見えない負債』の解消

- 新しいシステムを入れる前に、セキュリティやルールをチェックする「**情報化適用申請**」が必ず必要。
- そのチェックは、年間400件・合計約12,000項目。すべてを、**人の目と暗黙知**だけに頼って確認していた。
- その結果、見えないところで「ミスリスク」と「担当者の負担」——「**見えない負債**」が積み上がっていた

年間チェック箇所

12,000

400件/年 × 30項目/件



基準はある。だが、『解釈』は結局、人による



DX課職員

「なぜ伝わらないのか...」

心理的な壁



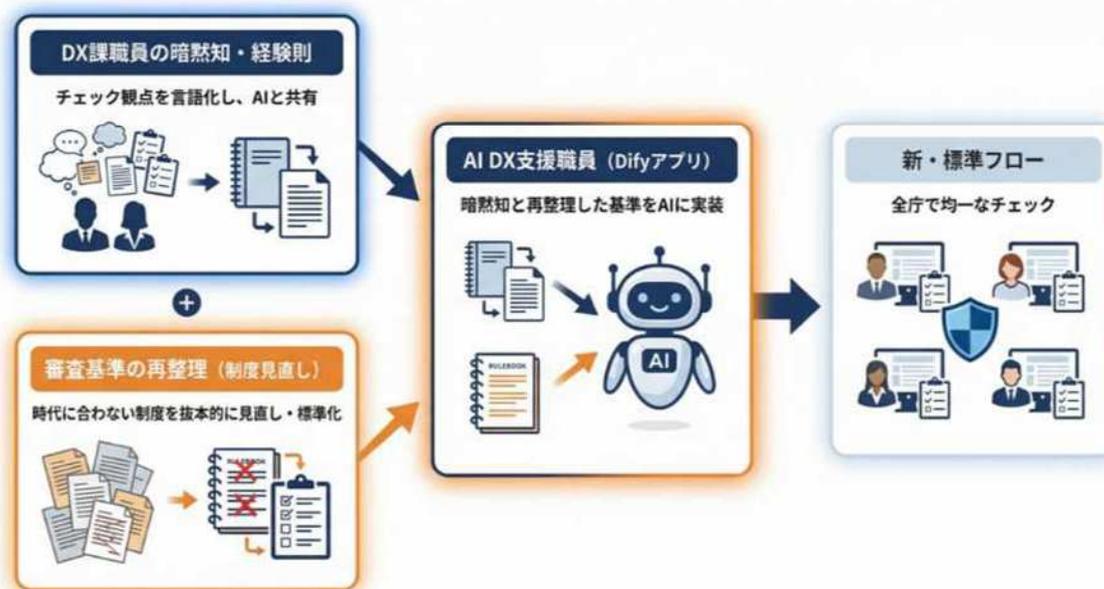
所管課職員

「どこまで書けばいいのか...」

- 明文化された詳細マニュアルがなく、**解釈が人・年度ごとにブレる。**
- 担当者が変わるたびにノウハウが失われ、繰り返される**「終わらない差し戻し」。**
- DX課・所管課双方に、時間的・精神的な負担と心理的な壁。



制度見直し × AI標準チェックでフローを再設計

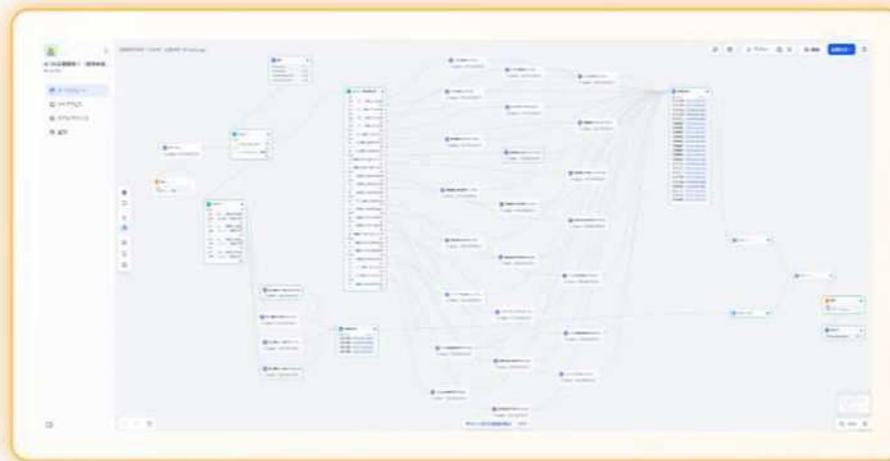


「人の属人的チェック」から
「制度改革 × AI標準チェック × 人の最終判断」へ



『AIDX支援職員』 熟練者の目線でいつでもレビュー

- 所管課が作成した申請書案を**ドラフトのまま投入可能**。
- 23項目ごとに異なる観点でAIが自動レビューを実施。
- 不備だけでなく**「なぜ不備なのか」**と修正文例まで即時提示。



最大の壁は、『暗黙知の形式知化』

- DX課各職員の頭の中にあった「知識」や「経験」を**分解・言語化**するのが最も困難だった。
- 実務に耐えうる精度になるまで、**何度もプロンプト・ルールを調整**。
- その時間を、未来のマニュアル化・OJT・差し戻し対応の**「前倒し投資」**と定義。



DX課の専用ツールから、全庁の『共通武器』へ



- ツールをDX課内だけに留めず、**全庁に開放**。
- 情報化適用申請の標準フローに「**AI事前セルフチェック**」を必須化。
- 提出時点で「DX課レベル」の品質を担保。**全庁共通のものさし**が誕生。
- AIを、一部の詳しい職員だけでなく、**全職員が当たり前**に使うインフラとして実装。



審査側だけで年間約200時間削減と、チェック品質の『均一化』



- 審査側だけで**約200時間**削減。申請・審査全体のリードタイム短縮。
- 誰がチェックしても同じ水準・観点で判断できる『**公平性**』の担保。
- 差し戻し減少により、DX課・所管課双方の心理的負担が解消。
- AIが業務で当たり前働く姿を見ることで、**AI活用**のモデルケースとしても機能。



この『AIとの協働』を、 区DXの標準へ

AIを前提に設計された自治体運営へ。その確実な第一歩。



横展開

他の審査・申請業務へ、
ワークフローテンプレートを高速
展開。



標準化

AIと人が同じ観点で見る共通フロ
ーへ。
属人化からの完全脱却。



AIファースト

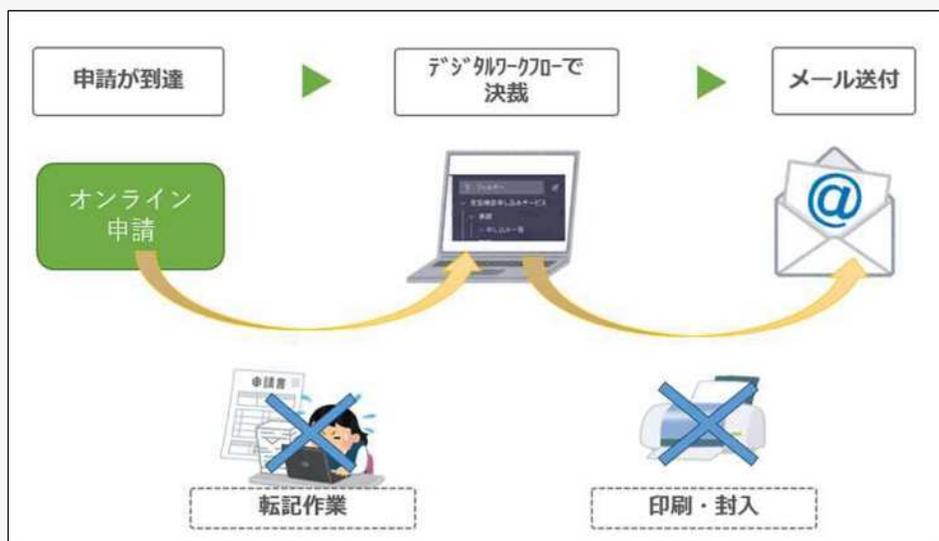
AIと共存する
新しい行政スタイル。



表紙
指定様式

デジタルワークフローによる エンドツーエンドの業務処理

書類やシステムを行ったり来たり
そろそろやめませんか？

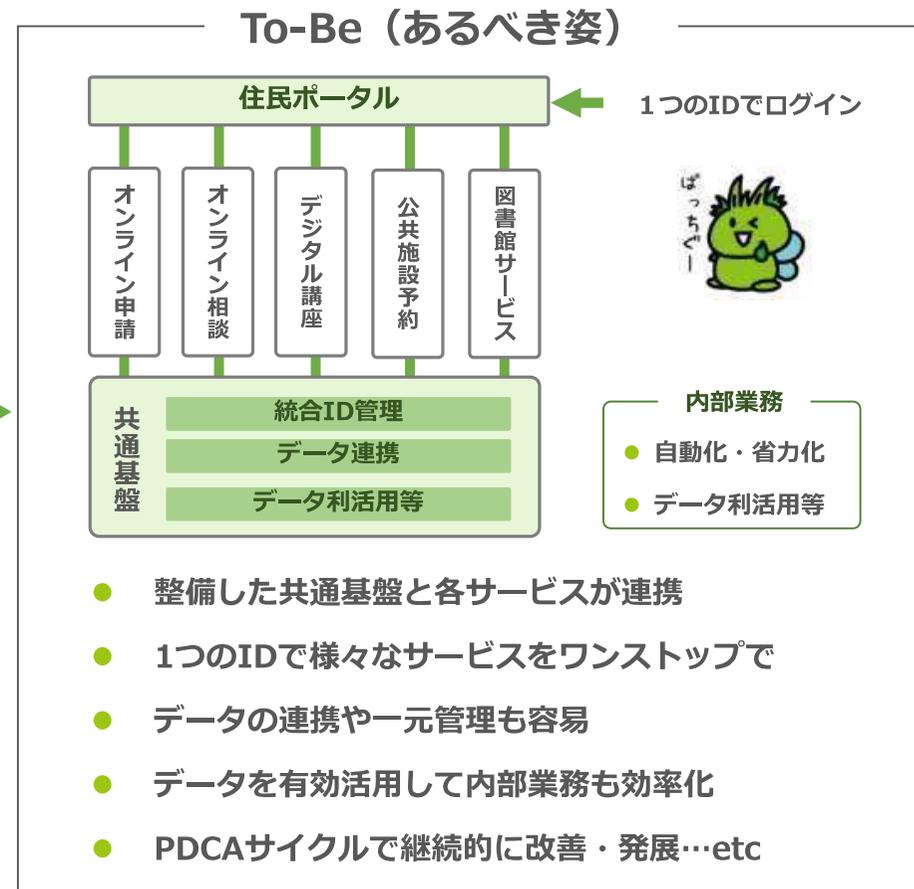
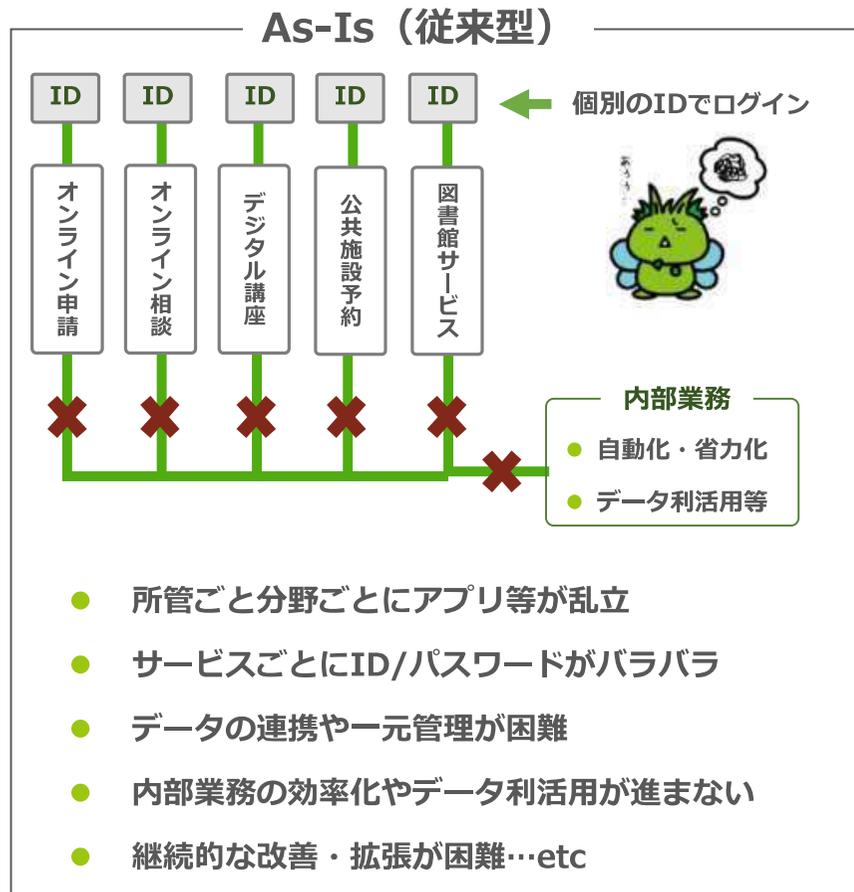


業務改善部門

東村山市 経営政策部 情報政策課

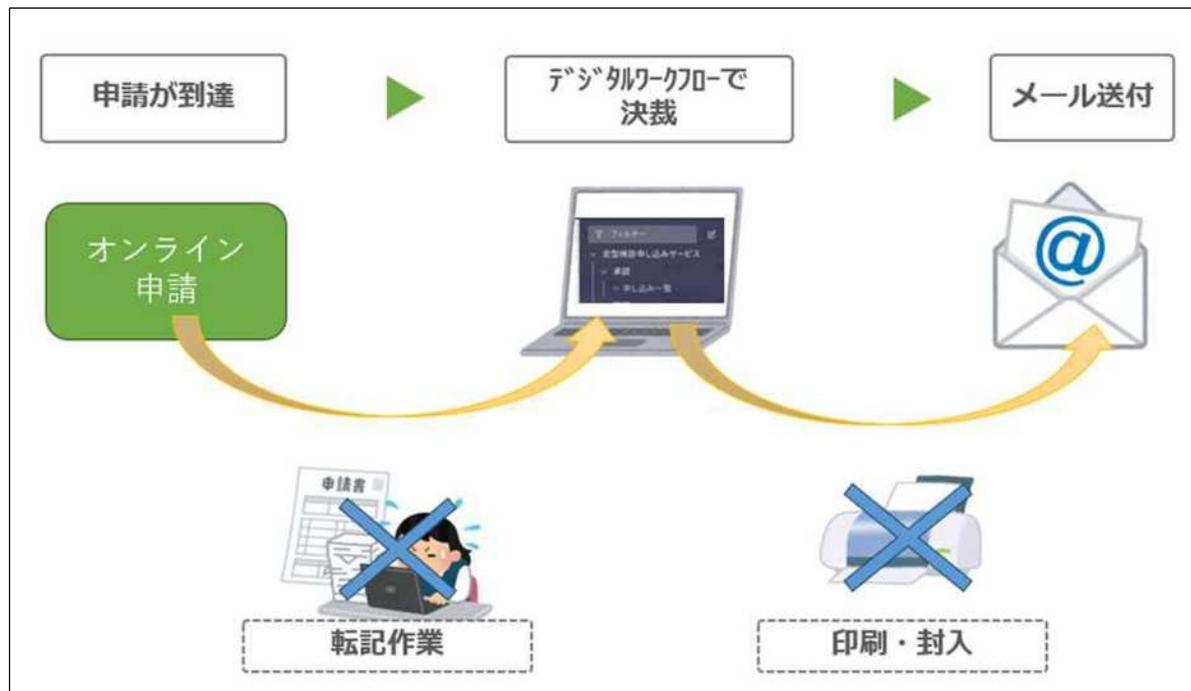


フロントヤード改革：IDひとつでワンストップサービス（たのしむらやまポータル）

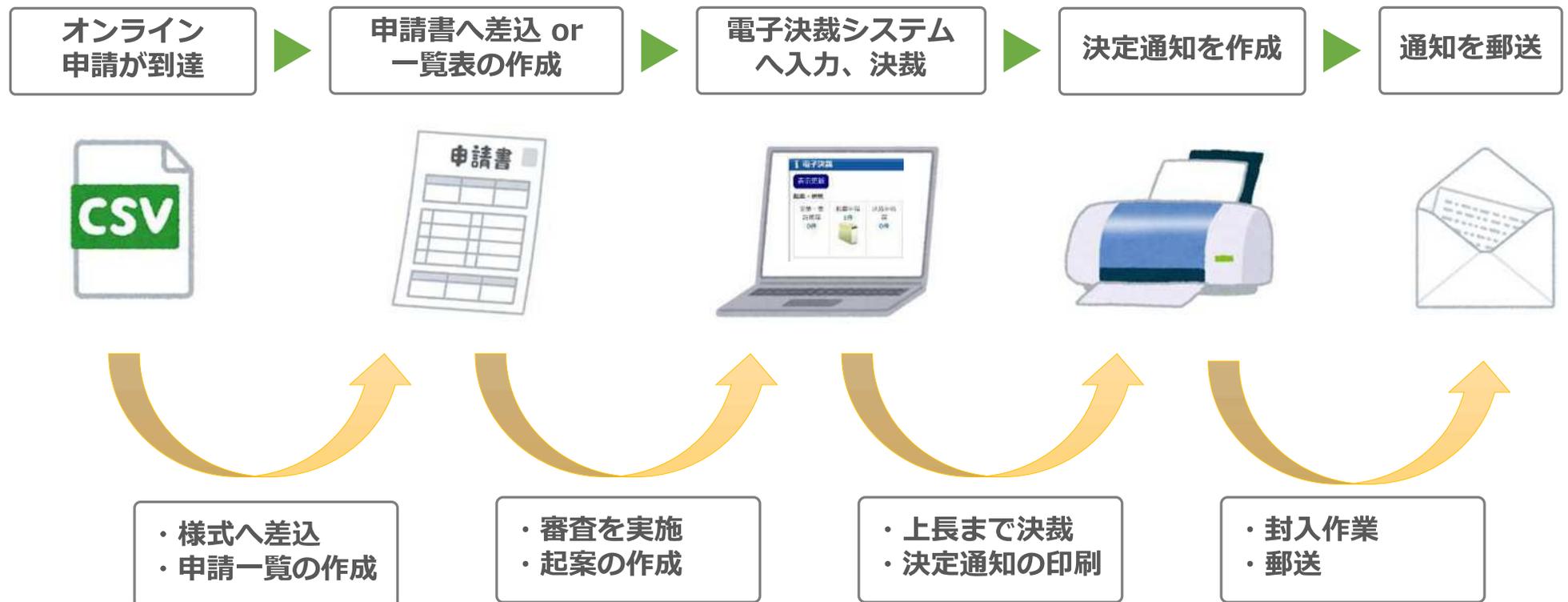


デジタル化は進んだけど、業務量が減らない・・・

- 書類やシステムを行ったり来たり、そろそろやめませんか？

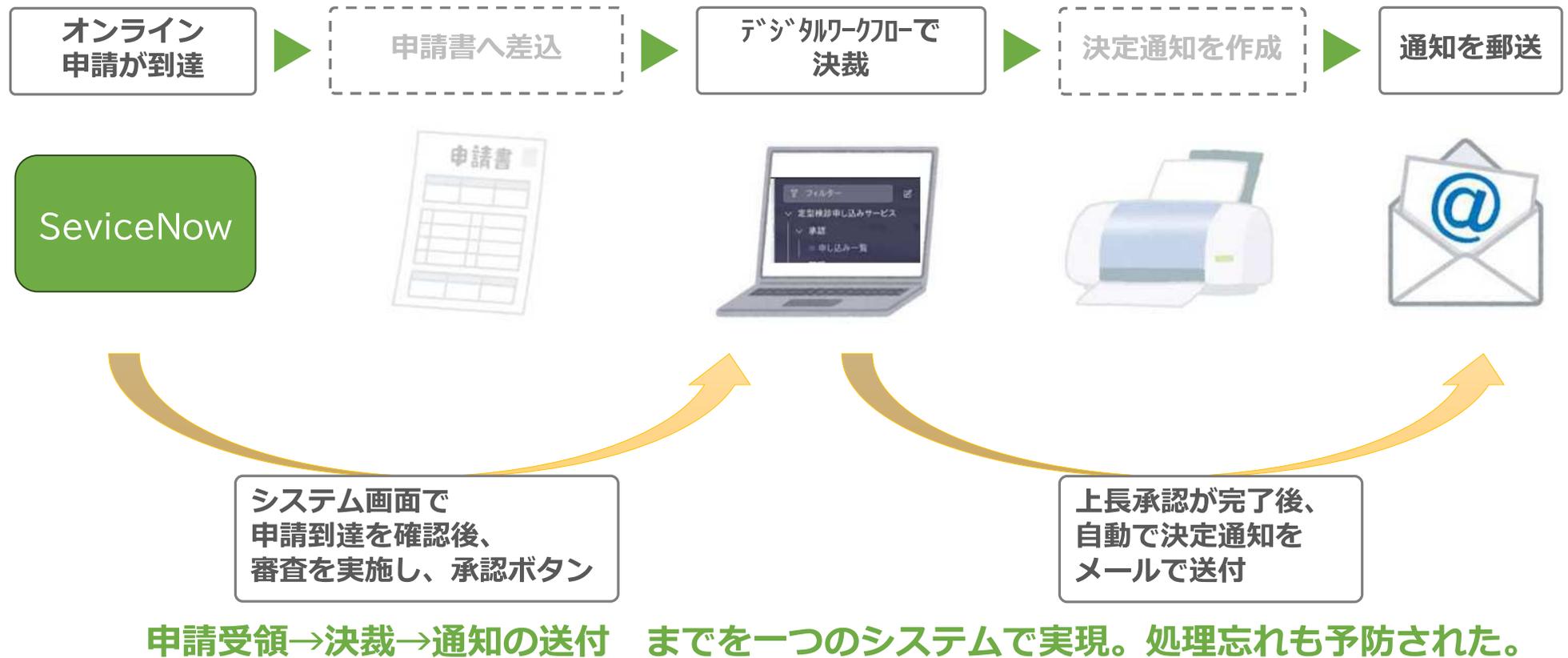


バックヤード改革：申請から決定までの業務量を減らしたい！



課題：電子申請を導入しても、バックヤード（職員側の業務）の仕事はあまり簡素化されなかった

デジタルワークフローを活用して一気通貫の事務処理を実現



いくつかの事業で効果を実感

産後ケアデジタルクーポン：オンライン申請率 約8割

健診申し込み：オンライン申請率 約4割





実際の運用画面：健診申し込み

住民側



肝炎ウイルス検診申し込み

市内にお住まいの40歳以上（昭和60年3月31日以前生まれ）のいない方が対象です。特定健康診査・後期高齢者医療健康診査実施医療機関で申し出てください。市への申込みは不要です。

実施期間：令和7年6月2日（月）～10月31日（金）
※受診可能日時は医療機関によって異なります。
実施場所：東村山市内・小平市内の指定医療機関
費用：無料

申請者情報

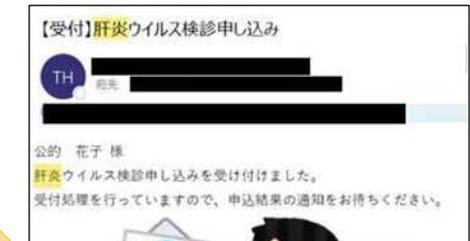
氏名（漢字）
公的 花子

*氏名（カナ）
[Blank]

生年月日
1954-04-01

住所
[Blank]

必要な情報を入力して、送信ボタン（事前に登録済の情報を入力不要）



申請完了の通知がメールまたはLINEで到着





実際の運用画面：健診申し込み

職員側

検診申し込み状況 ビュー: health check 申請結果 検索

すべて > 申し込み状況 = 承認待ち > 希望日程 イベントカテゴリ = 定型検診

番号	アイテム	申し込み状況	申請結果	通知内容	本人 氏名(漢)
CS0001582	肝炎ウイルス 検診申し込み	承認待ち	承認	【申込結果】承認通知	花子 山田
CS0001540	肝炎ウイルス 検診申し込み	承認待ち	承認	【申込結果】承認通知	花子 山田
CS0001530	肝炎ウイルス 検診申し込み	承認待ち			



詳細画面へ遷移

申請結果 承認

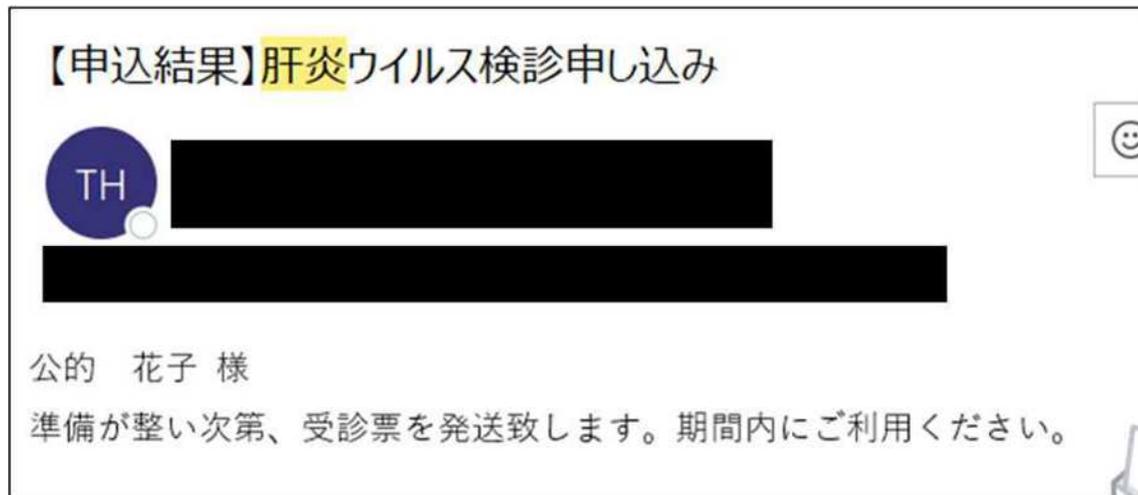
通知内容 【申込結果】承認通知

更新 挿入 挿入と維持 保存 決裁依頼 削除

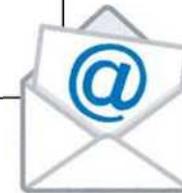
上長まで決裁

実際の運用画面：健診申し込み

住民側

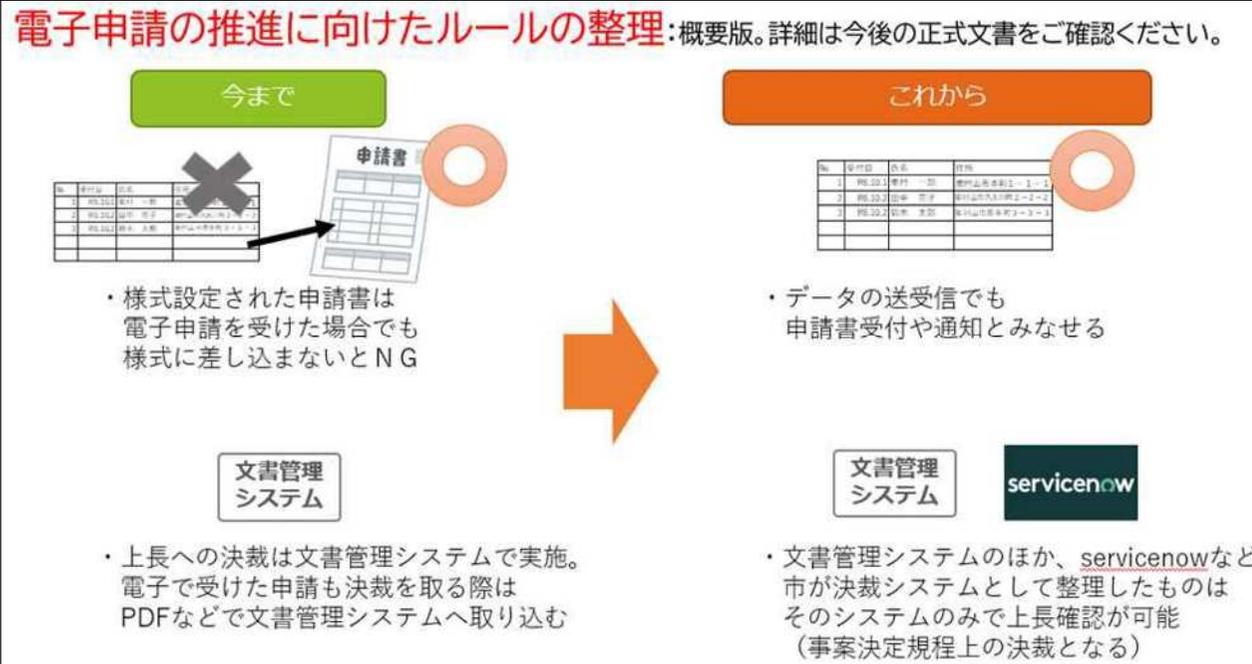


決定通知がメールやLINEで住民へ届きます



ワークフローの一元化のために

- 受付から決定まで、一気通貫で行けるよう対象業務の事務フローを見直し
- デジタルワークフローでの決裁も有効となるよう、庁内規程を見直し



庁内周知の際に使用した資料(抜粋)



今後の展望：スモールスタートから全庁展開へ

- 「よくある申請業務」を汎用申請としてテンプレート化し、職員が内製してどんどん横展開して使い倒したい
- オンライン決済や事業者との連携などへの発展も



胃がんリスク検診申し込み

胃がんリスク検診は、ピロリ菌の胃内感染の有無、胃粘膜の萎縮度などを検査することで、胃がんのリスクを分類・判定する検診です。

成人歯科・後期歯科検診申...

後期歯科健診は、生涯を通じて口の健康を維持し、食事の楽しみを享受できるよう、歯と口の健康を予防することを目的とした検診です。

セットがん検診申し込み(全...)

セットがん検診は、検診車で受けていただく検診です。(大腸がん検診は検査容器の提出のみ)

詳細を表示

テンプレートを元に内製

横展開が容易な 生成系AIを活用した アナログ規制改革対応



生成系AIは『職員に取って代わる技術』ではなく
『職員の判断を支援する道具』。
これからの行政DXのモデルは、AI×職員の協働

業務改善部門

墨田区総務部総務課

01 現状の課題 見えない行政改革の壁

私たちが直面している課題

墨田区においても、区民生活や事業活動に関わる数多くの条例や規則等の例規が存在。

対象となる例規数

1,700

個以上

それに含まれる条文数

21,700

条文以上

アナログ規制の潜伏



書面の提出



対面手続き



常駐・選任



この膨大な条文の中に「書面の提出」「対面手続き」等、DXを阻むアナログ規制が潜んでいる。



DX化を推進していくためには、例規からアナログ規制条文の洗い出しデジタルでも対応できるようにしていくことが急務。

02 なぜアナログ規制で生成系AIを活用するのか

従来のキーワード検索の限界

キーワード検索では、「過剰検出」と「検出漏れ」のリスクがあることが判明。

過剰検出

無関係な項目までヒットしてしまい
職員による確認作業の負担が膨大。



検出漏れ

検索語句と完全に一致しない場合、
全てのアナログ規制の洗い出しができない。



文脈把握が得意な生成系AI

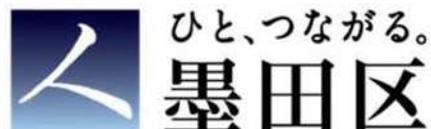


文脈を把握できるAIの活用により、**条文の法的意味を適切に解釈し、全条文を網羅的かつ検出精度を飛躍的に高められる**のではないかと注目。

03 どのようにAIを活用したか

BACKGROUND

令和7年4月、東京都デジタルサービス局及びGovTech東京によるプロジェクト型生成系AI活用に関する伴走支援に応募。



GovTech 東京

関係機関との共創

専門的な知見を持つ東京都・GovTech東京と連携し、技術的な支援を受ける体制を構築。

AIプラットフォーム

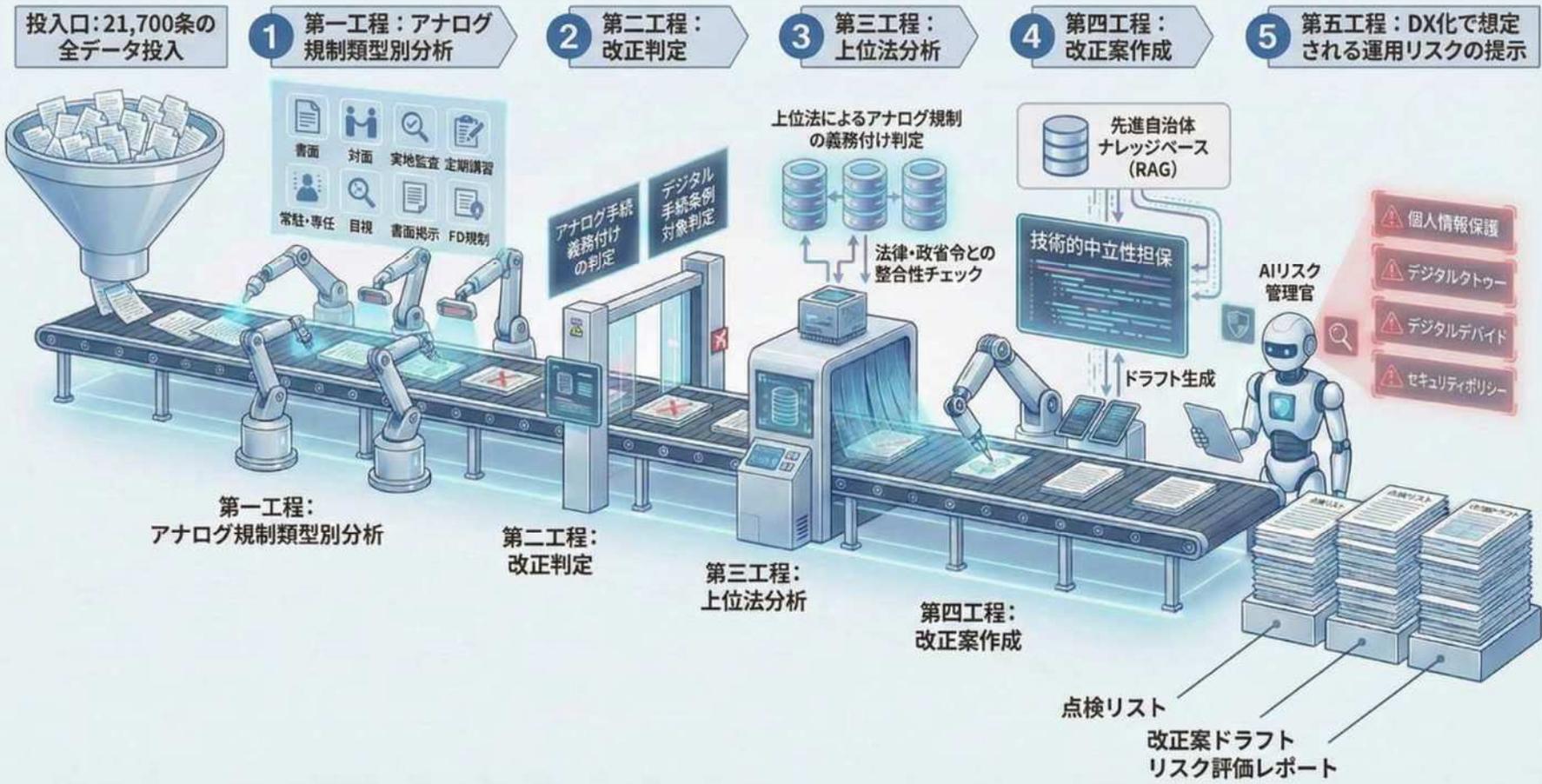
Dify

GovTech東京のAIプラットフォーム「Dify」を活用して、アナログ規制対応への精度向上と職員の負担軽減を目指すことに

Goal 1
精度向上

Goal 2
負担軽減

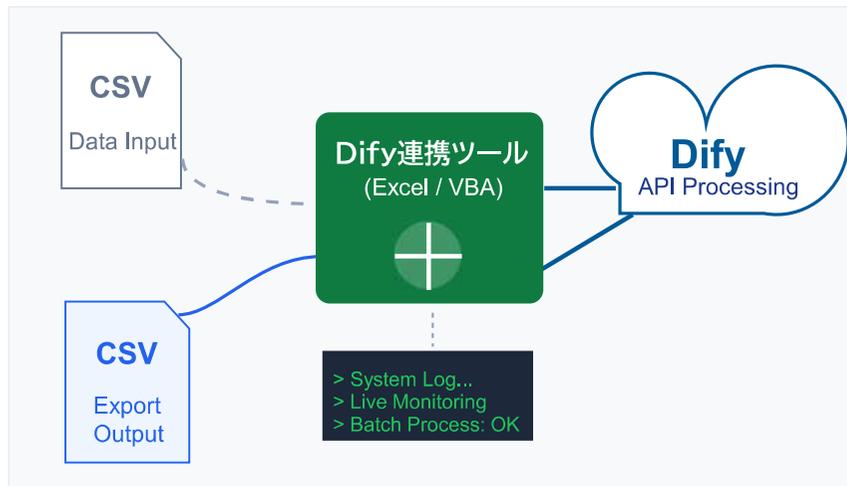
04 AIによるアナログ規制対応のフローのイメージ



05 アナログ規制分析ツールの開発

1 Dify連携ツールの開発

Difyに21,700条文を安定的にAPIで送信し、その分析結果を受け取るツールをEXCELで開発。調査対象の条文を各工程に送るベルトコンベアーの役割。



2 Difyでのアプリ開発と進捗

全5工程ごとにアプリを作成し、段階的に開発・検証を進行。

第一工程	アナログ規制の検出	✓ 実施済
第二工程	改正判定	✓ 実施済
第三工程	上位法による義務付け分析	● 実施中
第四工程	改正案の作成	○ 検証中
第五工程	DX化におけるリスクの提示	⇄ 開発中

06 職員の意思決定支援

これまでの条文精査



膨大な条文から該当箇所を目視探索
→ 作業負荷大・長時間化

AIは「答え」ではなく、職員による判断のための「**概要と根拠**」を提示

AI × 職員の協働フロー

Step 1: AIによる「判定」



根拠不明のブラックボックス化を防ぐ
「3点セット」を該当条文ごとに出力。

1. 【例規の概要】

専門外の職員でも即座に例規の内容を把握可能

2. 【判定】

規制の種類：(例)書面掲示規制

3. 【根拠・理由】

(例)物理的な書面の掲示を義務付けており、デジタルでの代替手段が記載されていないため、書面掲示規制に該当します。



Step 2: 職員による「判断」



職員は、AIが示した「概要」で理解し
「根拠」が正しいかを確認。

(例)

【目的・趣旨】

本要綱は、墨田区内で開催される縁日や祭礼等の行事における臨時営業及び臨時出店(臨時営業等)について、食品衛生の確保を目的としています。

【適用範囲】

この要綱は、墨田区内の縁日、祭礼、住民祭、産業祭等、公共的目的を有する行事において…



最終判断

07 第一工程と第二工程の成果

AIによるアナログ規制の検出と改正判定の結果

1 第一工程:アナログ規制の検出

目的:アナログ規制を類型別に検出する。

Input 全条文

21,700
条文

AI処理
75時間

Result 該当条文

5,700
条文

2件同時処理で平均25秒で処理

▼ 第一工程の処理フロー

1. アナログ規制を規制類型ごとに検出
2. 該当の場合、例規自体の概要や関係法令を作成

2 第二工程:改正判定

目的:デジタル化する場合に改正が必要な条文の洗い出し

Result: 改正必要

AI処理
15時間

800
条文

2件同時処理で平均20秒で処理

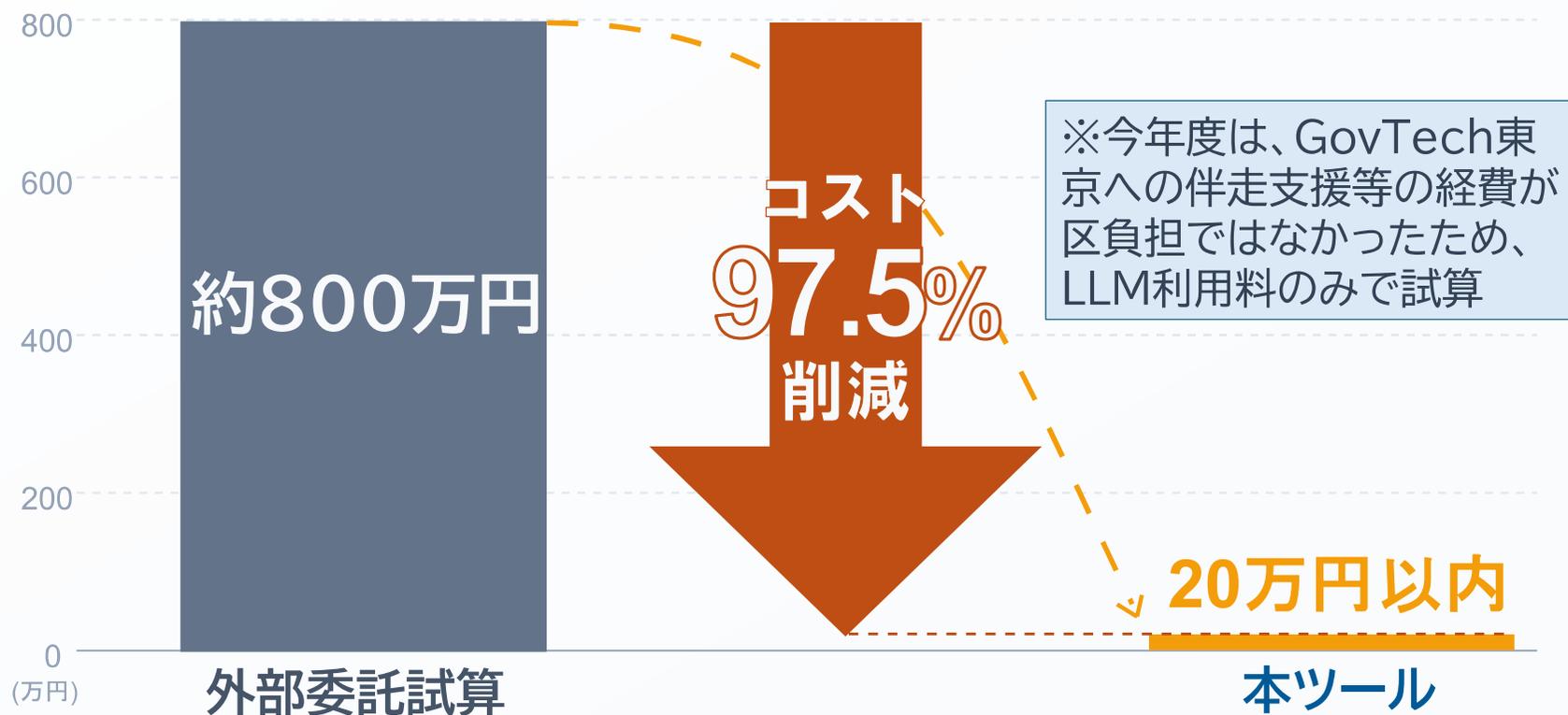
全条文からの
絞り込み結果
3.7% に圧縮

▼ 第二工程の判定基準

1. アナログ規制の手段を具体的に義務付けているか？
2. デジタル手続条例の対象外か？

08 アナログ規制分析ツールのコスト

外部委託とツール利用した場合のコスト比較



| 09 Tokyo Tech Driveへの貢献

墨田区のアナログ規制分析ツールは、
GovTech東京のDifyを通じて他自治体でも利用可能です。



DATA-DRIVEN GOVERNANCE

「経験と勘」から「データ駆動型」へ。
本ツールは、都内全域のガバナンスのアップデートをサポートします。

参考 アナログ規制分析ツールの出力サンプル

第一工程(検出・概要作成)及び 第二工程(改正判定)のAIによる出力例

EXCELから以下の項目ごとに出力されます。

第一工程 概要作成

墨田区介護保険サービス事業者等に対する指導及び 監査実施要綱 第5条

【例規の概要】

【目的・趣旨】

本要綱は、介護保険法に基づき、墨田区が介護保険サービス事業者等に対して実施する指導及び監査の基本的事項を定めるものです。その目的は、介護給付等対象サービスの内容、介護報酬の請求、業務管理体制の適合状況を明確にし、必要な助言・指導・是正措置を通じて、サービスの質の確保、利用者保護、保険給付の適正化、業務管理体制の適正な運用を図ることにあります。

【適用範囲】

本要綱は、…

【条文】

第5条（指導形態）指導形態は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 集団指導

指導の対象となるサービス事業者等を、必要な指導内容に応じ、一定の場所に集めて講習等の方法により行う。

(2) 運営指導

指導の対象となるサービス事業者等の事業所において実地に行う。

第一工程 アナログ規制の検出

【規制類型とその該当理由】

定期講習 研修

集団指導において、指導対象者を一定の場所に集めて講習を行うことが明記されており、オンラインでの実施が代替手段として示されていないため、物理的な集合・対面を義務付ける規制と解釈されます。

第二工程 改正判定

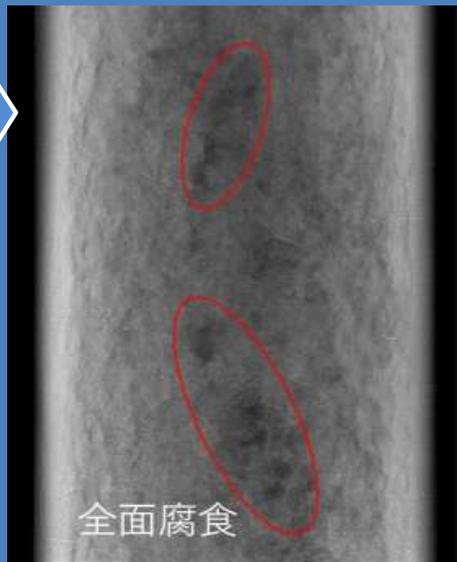
要 デジタル化する場合の改正の要否

【改正の必要性について】

条文が「一定の場所に集めて講習等の方法により行う」及び「事業所において実地に行う」と規定している。これは、単なる情報の授受や書面の提出・交付といった行為ではなく、物理的な場所での集合、対面での講習、現場での確認といった実体的な行為を伴う指導形態を定めている。これらの行為は、手続等の性質上、電子情報処理組織を使用して行うことが適当でないものとして、墨田区デジタル手続条例第7条の適用除外に該当する。したがって、通則条例による読み替えでは電子化が困難であり、当該義務を定める個別の要綱において、指導形態に関する規定を見直す改正が必要となる。ただし、本件は関係法令（国：介護保険法（平成9年法律第123号））が存在するため、…



人の目



全面腐食

機械の目

配管設備点検のデジタル化

「人の目」から「**機械の目**」にシフト！
デジタル技術で配管設備の劣化状況をみえる化！

業務部門

町田市財務部営繕課

配管設備点検の今

現状

目視による点検

劣化状況が不透明

一定周期毎に
全面改修工事

理想

デジタル技術を活用した点検

劣化状況を把握

適切な時期に
劣化状況に応じた改修工事

デジタル庁・SSKファシリティーズ・町田市で技術検証事業において
SPT配管診断の効果検証！（3施設調査）

目視点検の代替可能性

劣化状況の
見える化・定量評価

改修コストの縮減



保温材に覆われている配管設備

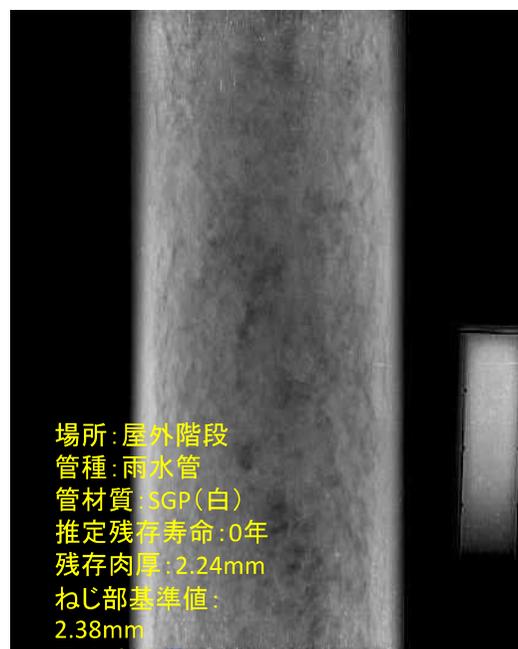


改修せずに放置すると漏水のおそれ

気になるSPT配管診断とは！

「SPT配管診断」とは、配管の劣化が著しい部分を特定し、劣化部分を数値化する特許技術

手順：X線透過検査 ⇒ X線デジタル画像解析 ⇒ 推定寿命の算出



場所：屋外階段
管種：雨水管
管材質：SGP(白)
推定残存寿命：0年
残存肉厚：2.24mm
ねじ部基準値：
2.38mm
最大腐食量：2.26mm

推定残存寿命0年

すぐにでも改修が必要



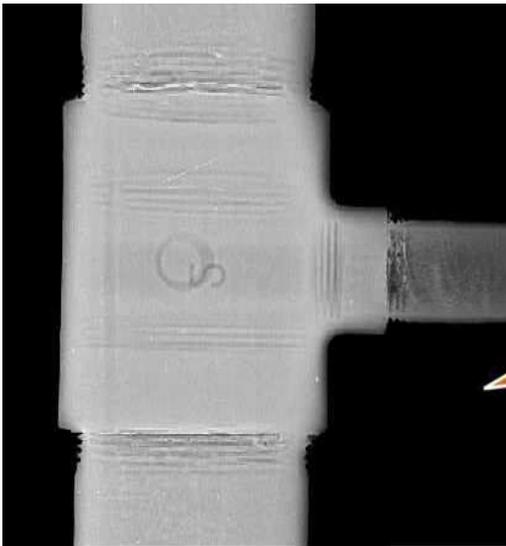
場所：屋外階段
管種：雨水管
管材質：SGP(白)
推定残存寿命：20年以上
残存肉厚：4.28mm
ねじ部基準値：2.38mm
最大腐食量：0.23mm

推定残存寿命20年以上

継続使用が可能

- ・配管内外面の錆や腐食による配管の厚みを画素値から把握
※一般的なX線透過検査とは異なる部分
- ・画像を基に、劣化進行度から推定寿命を算出
- ・各種を総合評価することで、更新時期を検証

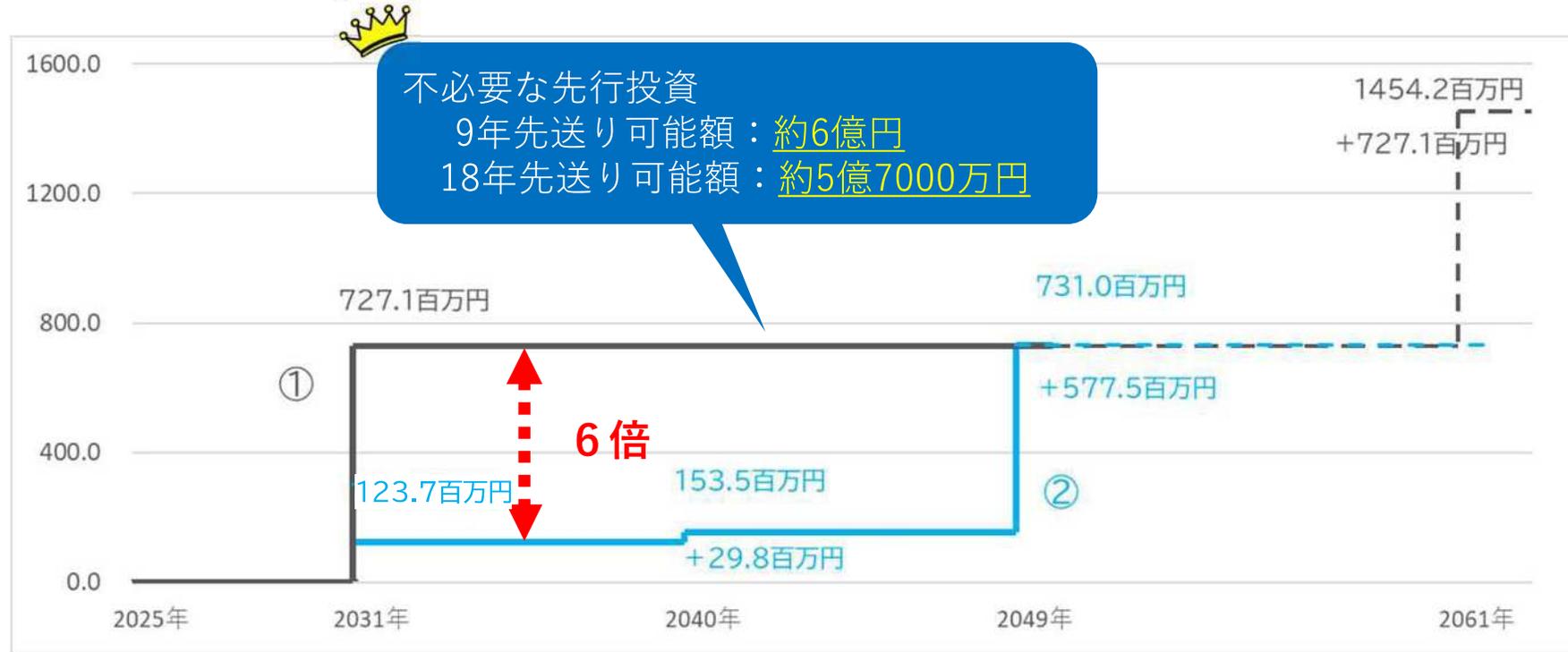
推定残存寿命0年の配管はどんな状態？



改修コストはどれくらい下がるのか

工事費の算出・比較

- ・「現在運用している保全計画に基づく工事費」と「SPT配管診断に基づく工事費」を算出・比較
- ・「SPT配管診断に基づく工事費」では、配管の劣化状況に応じた工事時期を明確にして算出



①は「現在運用している保全計画に基づく工事費」、②はSPT配管診断に基づく工事費

成果・まとめ

0
1

法定点検のDX

X線透過検査等が建築基準法が示す「目視点検」の
技術的な代替可能性を示した。

0
2

改修要否の判断材料

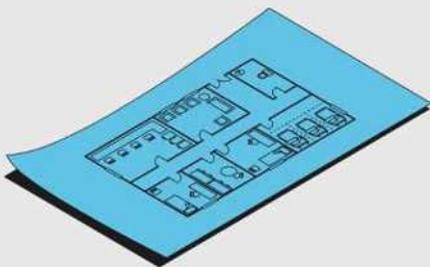
残存寿命といった配管の定量評価を行うこと・劣化状況のみえる化を
行うことで改修が必要かどうかの判断ができるようになった。
技術職員以外にも、工事の必要性を示し、合意形成の根拠資料に
役立つ。

0
3

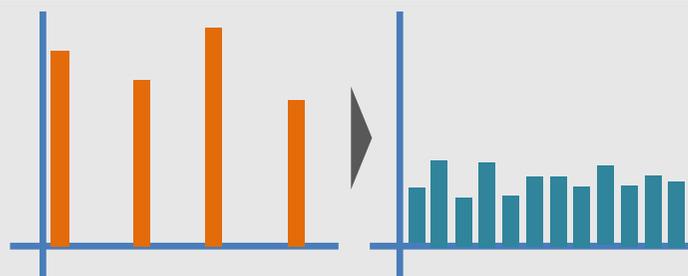
改修コストの縮減

配管の改修工事の範囲を全面改修から、配管診断の結果を
反映していくことで、3施設で約7億8,000万円と
コスト大幅な縮減・繰延べができることが分かった。

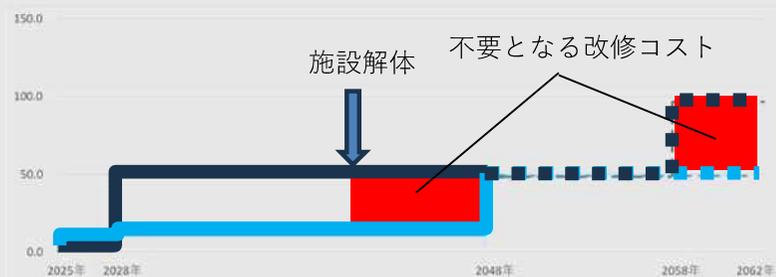
今後の展望



実際の設計へ反映・工事実施
効果確認



他の市有施設の調査
コスト平準化



施設の維持方針
コストの繰延べではなく削減へ



手法の確立
他自治体への普及